平成 23 年度

愛知県埋蔵文化財センター

年報

２０１２

公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団

愛知県埋蔵文化財センター

目　　次

Ⅰ.平成23年度事業概要 …… 1
調査の理由と工程 …… 2
平成23年度　調査遺跡位置図 …… 4

Ⅱ.遺跡調査の概要 …… 7
稲沢市　鎌倉街道周辺遺跡 …… 8
清須市　清洲城下町遺跡…… 12
豊田市　大平本城 …… 20
岡崎市　車塚遺跡…… 23
西尾市　岡山南遺跡…… 27
安城市　惣作遺跡…… 28
寄島遺跡 …… 31
宮下遺跡 …… 35
豊橋市　東下地遺跡 …… 37

Ⅲ.刊行報告書抄録 …… 43
第168集　姫下遺跡 …… 44
第169集　塚原1号窯跡・若宮1号墳・山口堰堤3号墳…… 46
第171集　長野北浦遺跡・塔の越遺跡 …… 48
第172集　惣作遺跡Ⅱ…… 50
第176集　柿下遺跡 …… 52
第177集　日置本郷B遺跡 …… 54

Ⅳ.埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録 …… 57

Ⅴ.発掘調査技術等研修会の記録 …… 65

Ⅵ.埋蔵文化財センターの活動 …… 69
写真資料の貸出・提供 …… 70
ホームページほか …… 72
現地説明会・地元説明会・遺跡報告会・ …… 74
報告書作成および発掘調査現場における遺構・遺物の指導 …… 74
その他普及活動 …… 74
平成23年度愛知県埋蔵文化財センター組織一覧 …… 75

Ⅰ. 平成 23 年度事業概要

調査の理由と工程

1 . 発掘調査

事業主体		事業名	遺跡名	調査面積（㎡）	調査期間	調査担当者
県建設部 都市整備課	尾張 建設事務所	街路新設改良工事（住宅基盤整備） 3・4・616 助七西市場線	清洲城下町遺跡	1,610	平成 23 年 9 月 ～平成 24 年 1 月	鈴木
県建設部 道路建設課	一宮 建設事務所	都市再生総合整備事業 （一）名古屋豊山稲沢線	鎌倉街道周辺遺跡	830	平成 23 年 4 月 ～平成 23 年 6 月	鈴木
	西三河 建設事務所	道路改良工事 （主）岡崎足助線	車塚遺跡	800	平成 23 年 6 月 ～平成 23 年 8 月	池本
		道路改良工事 一般県道西尾幡豆線	岡山南遺跡	910	平成 23 年 12 月 ～平成 24 年 2 月	池本
	東三河 建設事務所	道路改良工事 （主）東三河環状線	東下地遺跡	10,630	平成 23 年 5 月 ～平成 24 年 3 月	永井宏・ 川添
県建設部 河川課	知立 建設事務所	床上浸水対策特別緊急事業 （鹿乗川）	惣作遺跡	2,200	平成 23 年 11 月 ～平成 24 年 1 月	松田・ 永井邦
		交付金事業（鹿乗川）	寄島遺跡	2,135	平成 23 年 5 月 ～平成 23 年 9 月	松田・ 永井邦
			宮下遺跡	80	平成 23 年 9 月	松田・ 永井邦
県建設部 砂防課	豊田加茂 建設事務所	急傾斜地崩壊対策事業	大平本城	310	平成 23 年 10 月 ～平成 23 年 11 月	池本

計　19,505 ㎡

2.整理・報告書編集

	事業主体		事業名	遺跡名	調査面積（㎡）	調査年度
整理	県建設部	道路建設課	道路改良工事（国）363 号	桑下城跡	9,400	H16,19～21
整理・報告書作成	国土交通省	名四国道事務所	一般国道 23 号豊橋東バイパス	東中田 A 古窯	1,591	H.19
	中日本高速道路株式会社	豊田工事事務所	第二東海自動車道横浜名古屋線	西牧野遺跡	38,250	H.21,22
	県建設部	道路維持課	自転車歩行道路設置工事	日置本郷 B 遺跡	1,100	H.21
		都市整備課	都市再生総合整備事業稲沢西春線	長野北浦遺跡	16,450	H.19～20
			都市再生総合整備事業稲沢西春線	塔の越遺跡		H.19～22
		道路建設課	道路改良工事（国）363 号	上品野西金地遺跡	270	H.18
			県道名古屋江南線拡幅工事	町屋遺跡	1,600	H.19
			県道名古屋豊山稲沢線建設	鎌倉街道周辺遺跡	8,000	H.22,23
		砂防課	急傾斜地崩壊対策事業	滝町古窯	400	H.20

3.平成23年度刊行物

・埋蔵文化財報告書（計６冊）

第168集　姫下遺跡

第169集　塚原1号窯跡・若宮1号墳・山口堰堤3号墳

第171集　長野北浦遺跡・塔の越遺跡

第172集　惣作遺跡 II

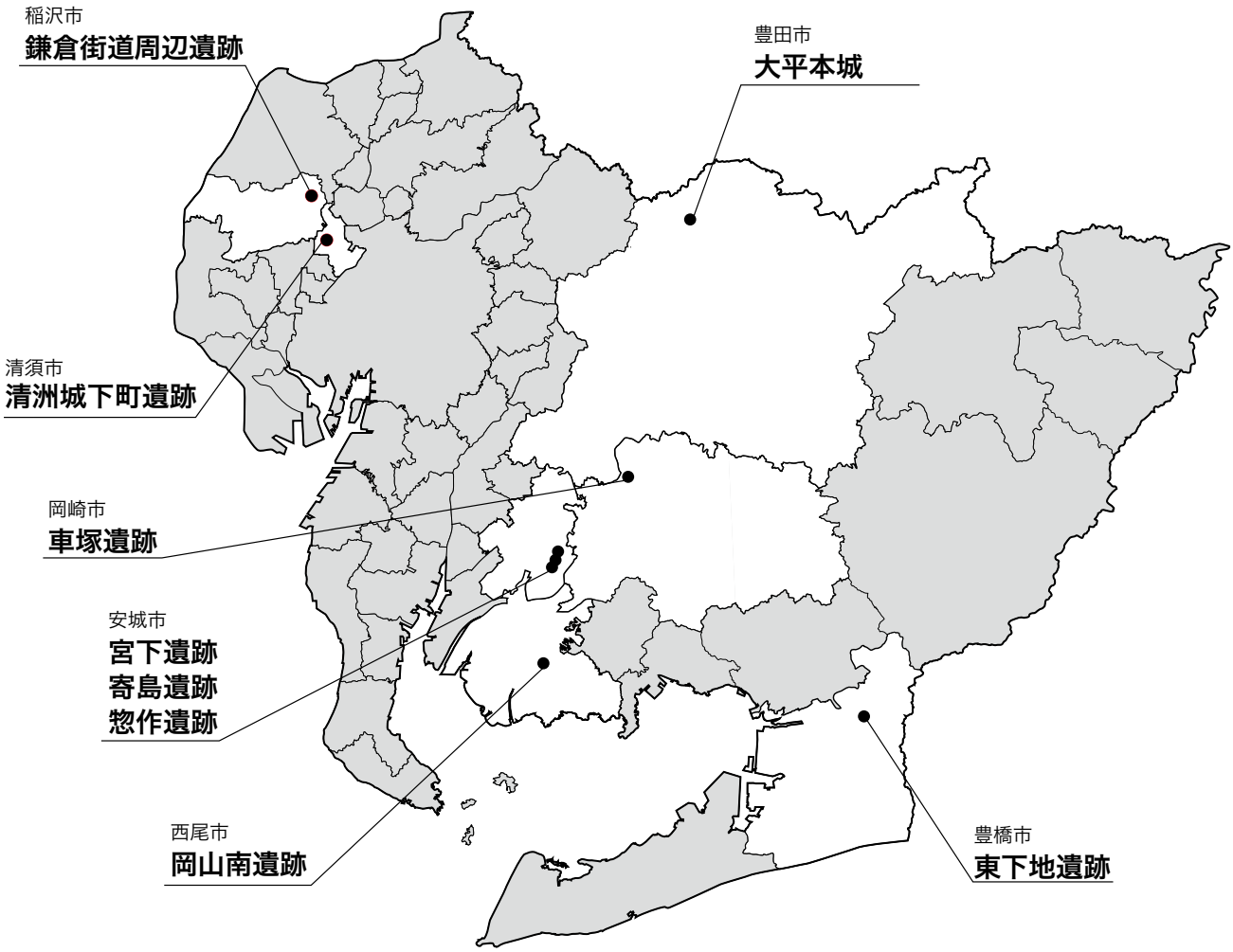
第176集　柿下遺跡

第177集　日置本郷B遺跡

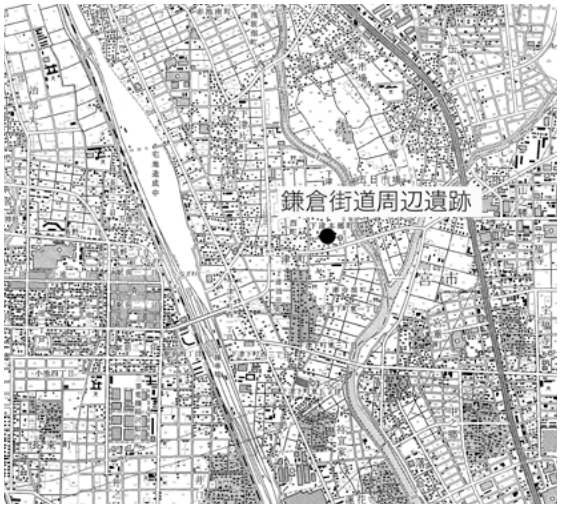
・平成 23 年度　愛知県埋蔵文化財センター年報

・研究紀要　第 13 号

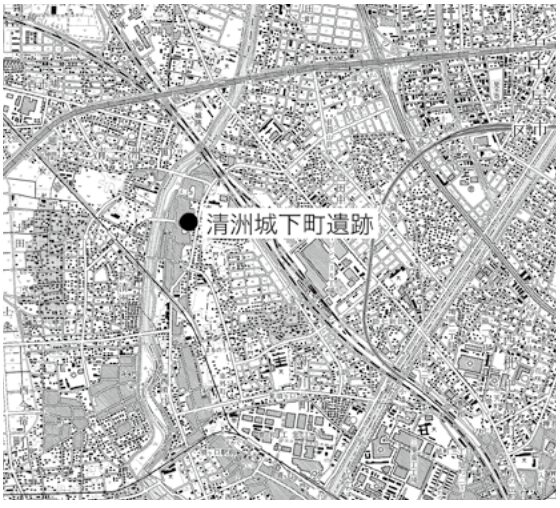
平成2 3 年度　調査遺跡位置図



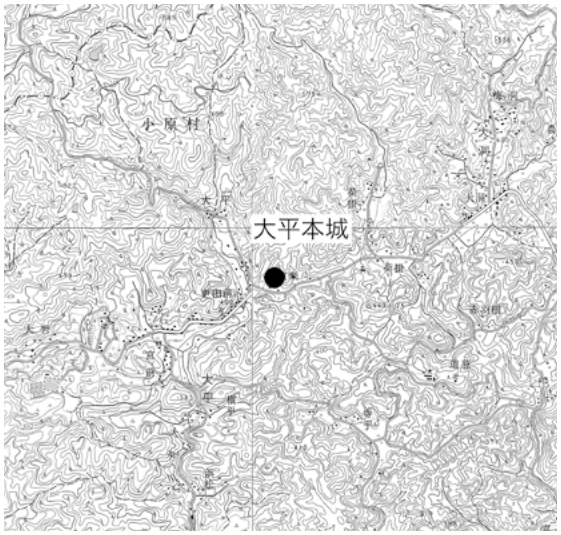
※ 地形図は 50%縮小されています。



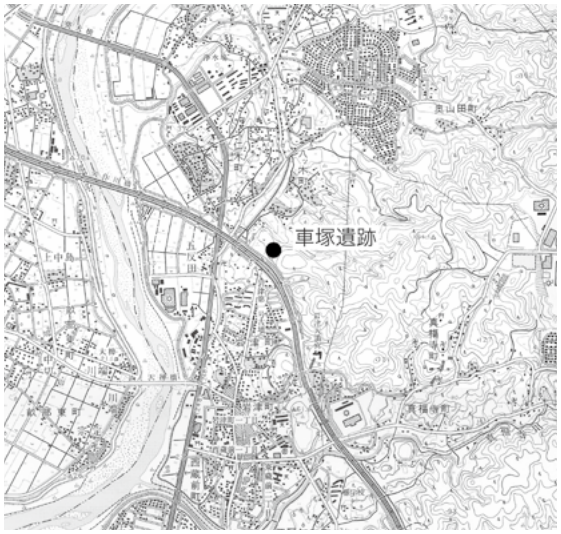
国土地理院 1/2.5 万地形図「一宮・清洲」



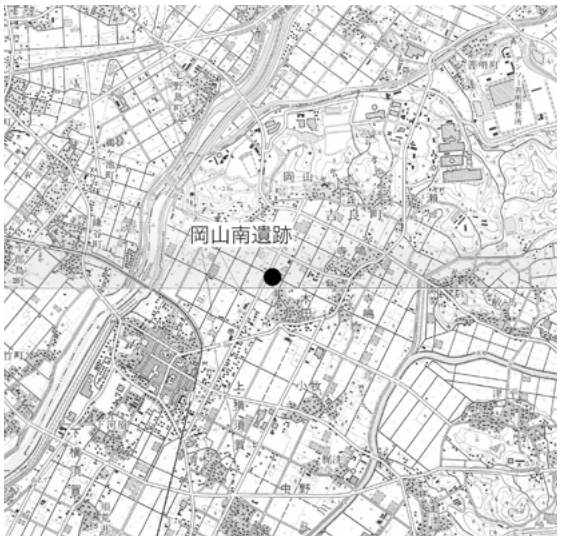
国土地理院 1/2.5 万地形図「清洲」



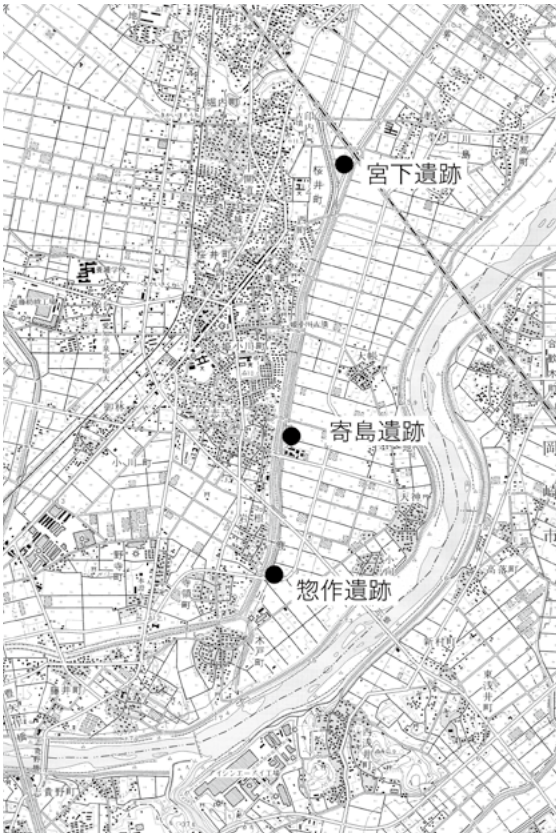
国土地理院 1/2.5 万地形図
「多治見・猿投山・猿爪・小渡」



国土地理院 1/2.5 万地形図「豊田南部」



国土地理院 1/2.5 万地形図「西尾・吉田」



国土地理院 1/2.5 万地形図「安城・西尾」



国土地理院 1/2.5 万地形図「豊橋」

II. 遺跡調査の概要

かまくらかいどうしゅうへん 鎌倉街道周辺遺跡

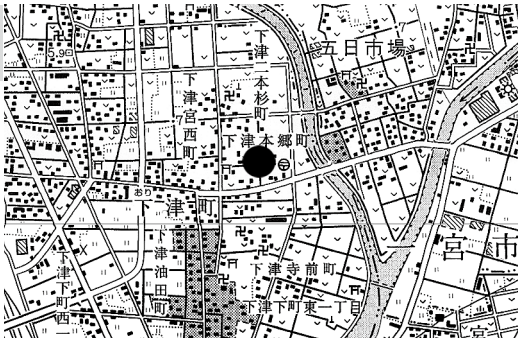
所在地　稲沢市下津本郷町・下津宮西町
（北緯35度15分19秒 東経136度49分52秒）

調査理由　県道名古屋豊山稲沢線建設

調査期間　平成23年4月～平成23年6月

調査面積　830㎡

担当者　鈴木正貴



調査地点（1/2.5万「一宮」）

調査の経過　調査は愛知県建設部道路建設課による県道名古屋豊山稲沢線建設工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成23年４月から６月にかけて実施された。調査面積は830㎡であり、昨年度の調査に引き続く形でＡａ区・Ａｂ区・Ｂａ区・Ｂｂ区・Ｄ区の５調査区に分けて調査を行った。

立地と環境　鎌倉街道周辺遺跡は青木川右岸に所在する南北約3.0km、東西約1.5kmの範囲にわたる広大な遺跡である。青木川によって形成された自然堤防およびその後背湿地に立地しており、標高は約６～７mを測る。昨年度の調査では古代末から中世の遺構・遺物が濃密に展開していることが明らかになり、その豊富な内容から、下津宿あるいは尾張守護所下津の一部に相当すると考えられ、中世都市の具体的な様相を知る上で重要な成果となっている。

調査の概要　今回の調査では、昨年度と同様に、古代末から中世までの様々な遺構や遺物が確認された。遺構は激しく重複する場合があり、時期区分を整理することは容易ではない。調査区ごとに概要を説明する。

Aa区　Ａａ区では２面調査を行い、１面で12世紀～15世紀、２面で10世紀～12世紀の遺構や遺物が確認された。両面とも柱穴が多数検出され、掘立柱建物跡が複数建てられたものと考えられる。10Ａ区で確認された溝に囲まれた区画が屋敷であったと推測される。

Ab区　Ａｂ区では、12世紀～13世紀頃の大型土坑と15世紀頃の柱穴が発見された。

Ba区　Ｂａ区では５面調査を行ったが、概ね３時期に整理される。15世紀では、深さ1m以上の大溝が東西方向に２条平行して検出された。通路および屋敷を構成したものと推測される。14世紀～15世紀前半では、長さが1m前後の長方形の土坑が点在した。12世紀では、竪穴状遺構と柱穴群が確認されたが、その性格は不明である。

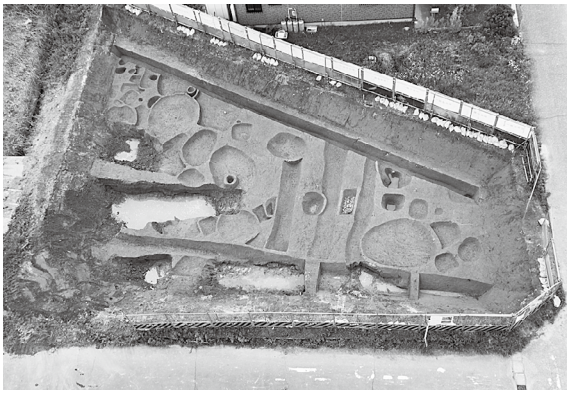
Bb区　Ｂｂ区では２面調査を行い、１面で14世紀～15世紀の東西溝１条と南北溝３条、２面で12世紀～15世紀の南北溝２条などの遺構が確認された。この地点では、屋敷割は少なくとも２回は変更され、多数の柱穴の存在から屋敷の中に掘立柱建物跡が存在したと想定される。２条の溝の間には円礫をきれいに敷き並べた石敷遺構が存在する。

D区　Ｄ区では４面調査を行い、１面では昨年度の調査で鎌倉街道と推定された幅が約10mの高まりの延長部が南北に伸びる形で確認された。この道路状遺構は15世紀中頃までの柱穴などを整地して作られたこと、少なくとも18世紀には畑の耕作土が堆積して畝と思われる小溝が掘削されたこと、道路面付近で16世紀の遺物も出土したことから、この部分の道路状遺構は15世紀中頃以降16世紀を中心とする時期に機能していたと想定される。

２面～４面では道路状遺構以前の遺構が多数確認され、地区により遺構の様相が異なっている。調査区東部では柱穴が多く展開し、掘立柱建物が建っていたと推測された。中央部では深さが30cm程度の長方形土坑がいくつか発見され、長方形土坑1222ＳＫの床面土



Aa区１面全景



Bb区１面全景



Ba区５面全景



Bb区２面全景

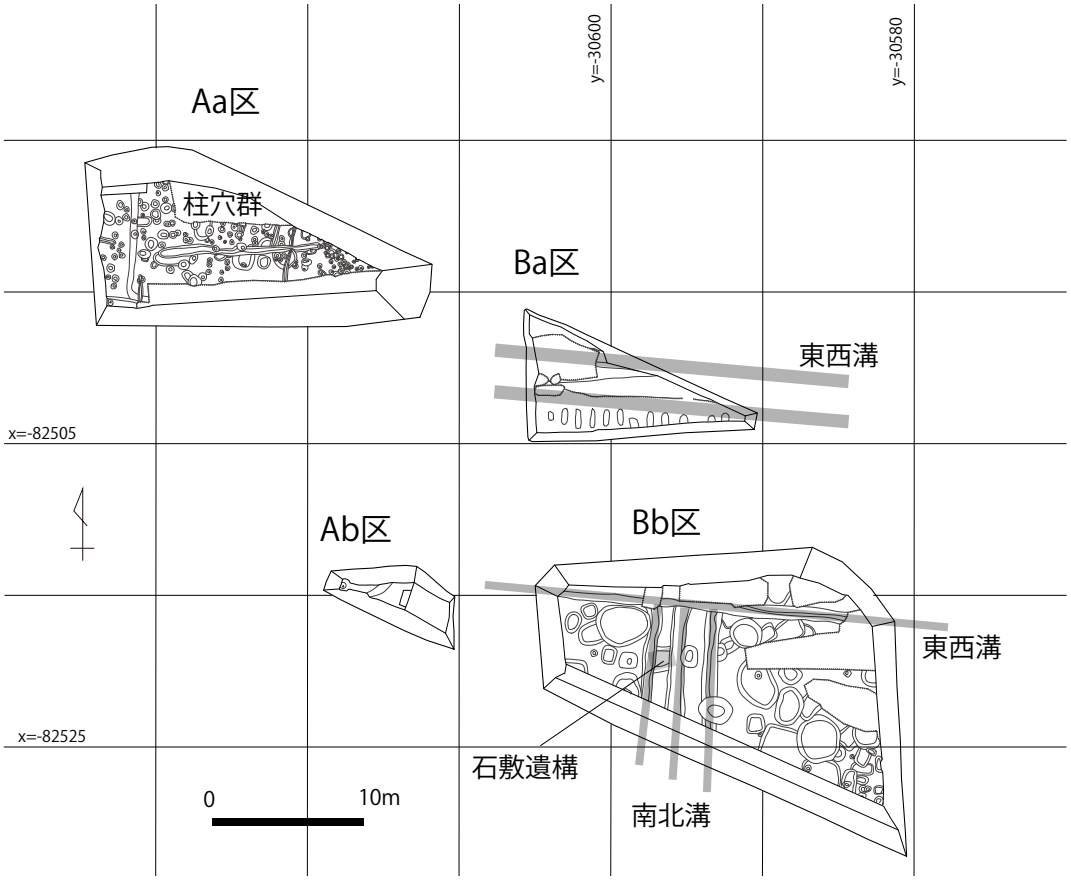


図１　A･B区１面遺構図

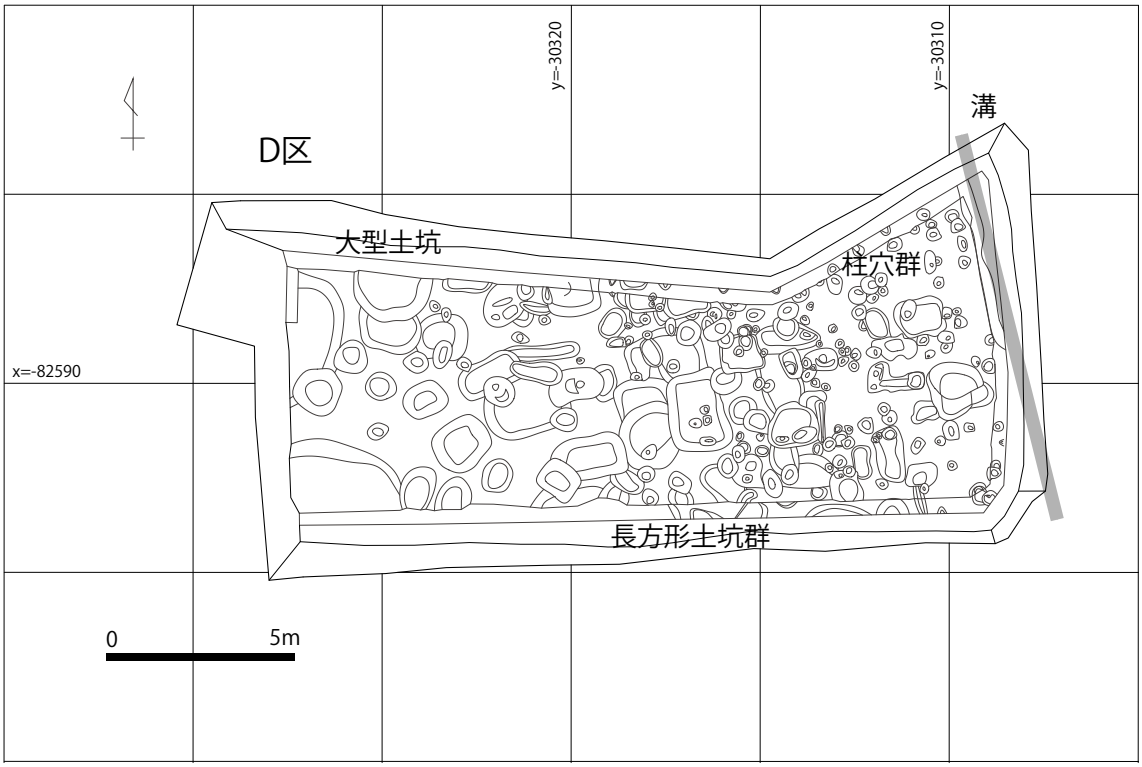
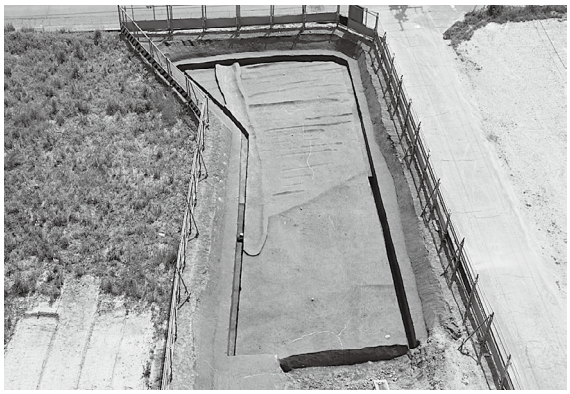
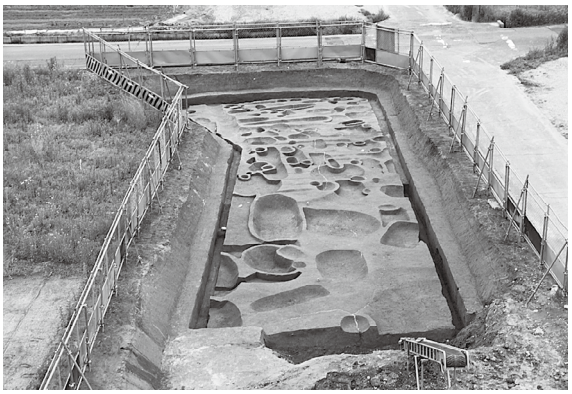


図２　D区３面遺構図



D区１面全景（上半が道路状）



D区２面全景



D区４面全景

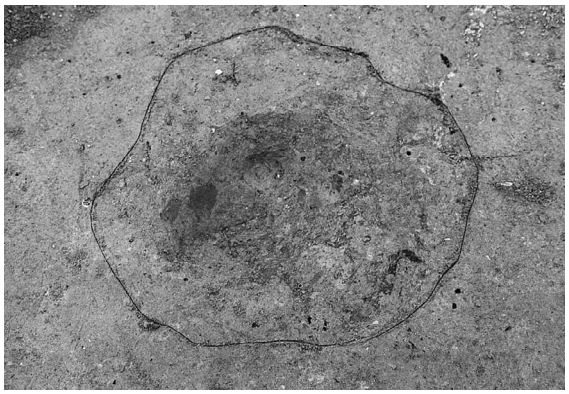


1490SK土層断面


1320SK 遺物出土状況


2123SK 礫出土状況


167SP 山茶碗出土状況


1306SK 焼土検出状況

壌の水洗篩別作業の結果、鍛錬鍛冶工程の際に発生する鍛造剥片や粒状滓や鉄滓などが抽出された。また、中央部から西部にかけては、中型から大型の土坑が繰り返し掘られ、土坑からは陶磁器・土器類の他に、鉄滓や鋳型片、焼土壁や炭化材などが多く出土している。炉跡などの生産遺構そのものは確認されなかったことから、D区付近で金属製品を生産が行われたものと推測される。この他に、東端部で南北溝１条が、西部で井戸２基が検出されている。

ま と め

今回の調査では、狭小な調査区のために確認された遺構群も限定的であり、昨年度調査区の中に位置づけていかないと正しく理解できないだろう。その中にあって、A区・B区では溝と掘立柱建物跡を中心とする遺構群があり、D区ではそれに金属生産関連遺物などが含まれる土坑群が加わると整理できるだろう。A区・B区ではやや土師器皿が目立つことなどからみて、有力者の屋敷や寺院などの可能性も考えられよう。一方，D区では遺構密度は稠密であることなどを加味すると、商職人が盛んに活動した場所とみることができよう。そして、D区では、これらの遺構を廃して道路状遺構が造成され、それ以降はそこでの活動が低調になったことにも注目しておきたい。

今後は、このような様相の相違を遺跡全体の中にどのように位置づけて評価していくかが課題となるだろう。（鈴木正貴）

清洲城下町遺跡（きよすじょうかまち）

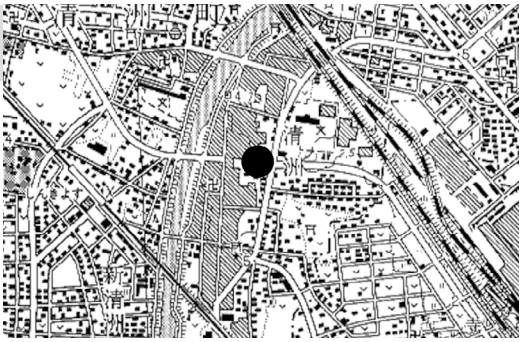
所在地　清須市清洲地内
（北緯35 度02 分58 秒 東経136 度06 分57 秒）

調査理由　街路新設改良工事（住宅基盤整備）3・4・616助七西市場線

調査期間　平成23年９月～平成24年１月

調査面積　1,610 ㎡

担当者　鈴木正貴



調査地点（1/2.5万「清洲」

調査の経過　調査は愛知県建設部道路整備課による県道助七西市場線建設工事に伴う事前調査として、愛知県教育委員会の委託を受けて平成23年９月から平成24年1月にかけて実施された。調査面積は1610㎡であり、昨年度調査区の西側から順にＡ区・Ｂ区・Ｃ区の３調査区に分けて調査を行った。

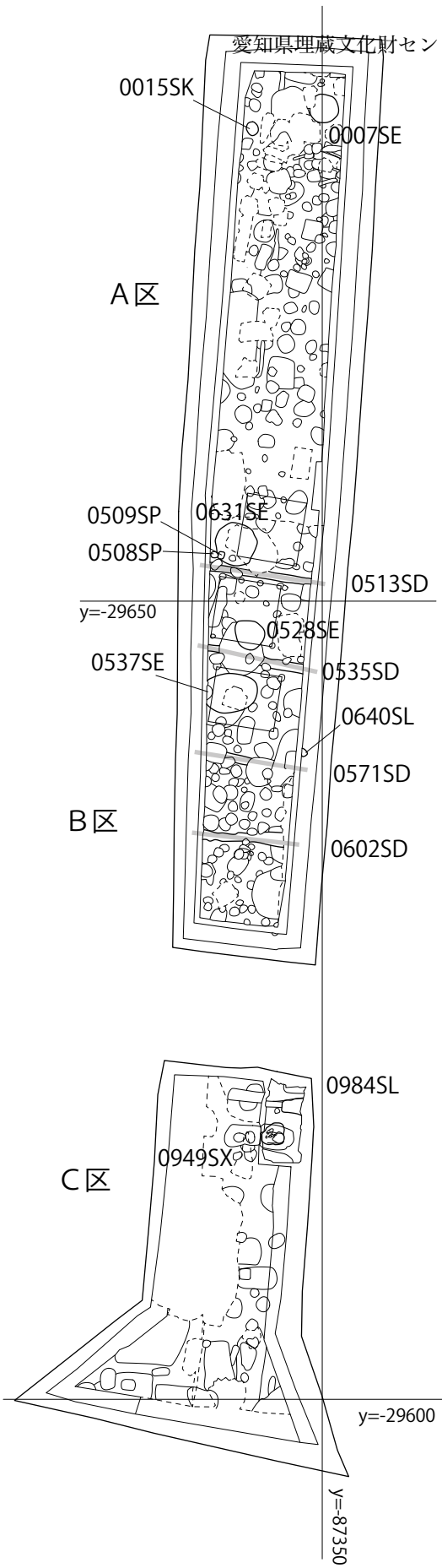
立地と環境　清洲城下町遺跡は五条川によって形成された自然堤防および後背湿地上に立地する。戦国時代から江戸時代初頭までの清須城とその城下町を中心とする遺跡であるが、古墳時代の集落跡から江戸時代の宿場町まで様々な時期の遺跡が複合している。調査地点は、五条川左岸で清須城のほぼ真南の位置にあり、城下町期後期の中堀の外側、城下町期前期の武家屋敷域の最南端に相当する。

調査の概要　今回の調査では古代から近世までの多様な遺構や遺物が重複した状態で確認され、地点により３～５面に分けて発掘調査を行った。これらは大きく平安時代、鎌倉時代～室町時代、城下町期、宿場町期の４期に大別されるが、遺構の大半は城下町期前期後半～城下町期後期に属するものであった。この段階で繰り返し遺構の掘削と改変が行われていたと考えられる。

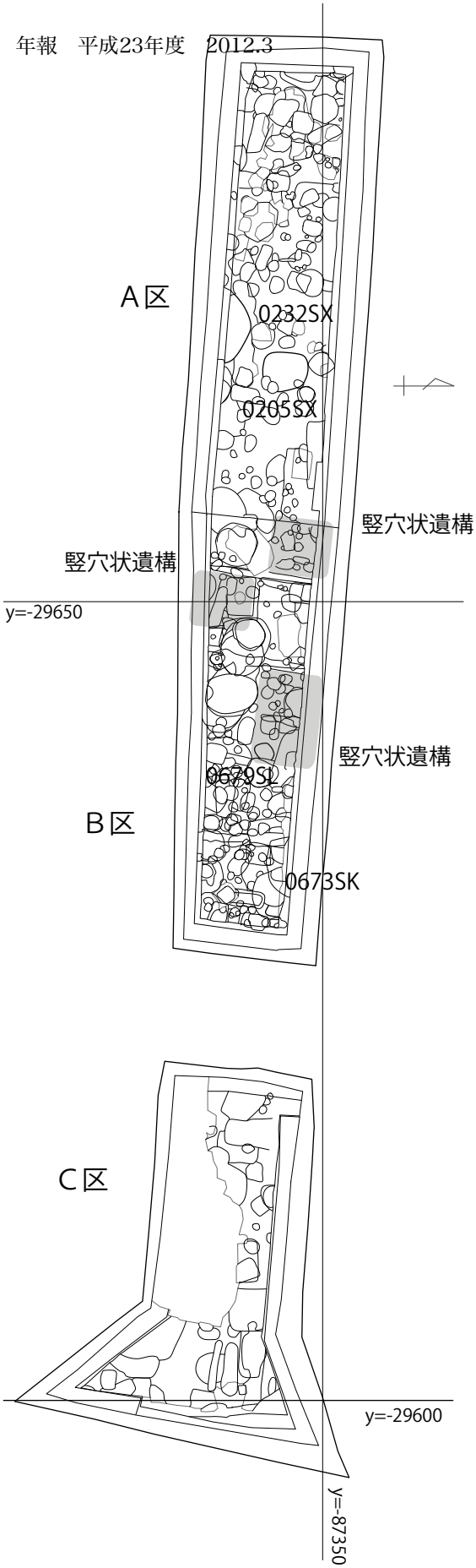
調査区は東西方向に細長く設定されており、基盤層のあり方が地点により異なっていた。Ａ区西半部から昨年度調査区にかけては厚く中粒砂が堆積しており、これが平安時代から室町時代にかけての流路と推定され、そこから東は徐々にシルトなど安定した自然堤防の堆積が確認された。城下町期にはこの流路は埋積し『清須村古城絵図』に描かれた河道に移動したものと思われる。以下、時期ごとに遺構の概要を報告する。

平安時代　Ａ区東半部からＣ区にかけて竪穴建物跡約10棟が確認された。黄褐色粘質シルトなどを地山とする部分に分布し、一辺が3m前後の規模を持つ隅丸方形を呈する。0450SIなどのように主柱穴が検出されるものもあるが、概してカマドや炉などの内部施設は不明なものが多い。須恵器や灰釉陶器あるいは土師器片が出土し、8世紀から10世紀に属するものと思われる。これらは、田中町地区に所在する古墳時代から平安時代までの集落縁辺部に相当する遺構群と想定される。かつて本調査区南東部で出土した墨書灰釉陶器とそれに伴う掘立柱建物跡に関連する遺構・遺物は明瞭には確認されていない。

鎌倉時代～室町時代　Ｃ区東部で区画溝２条と井戸１基などが検出されたが、その他の部分では遺物は認められるものの顕著な遺構は今のところ確認できていない。溝（0994SD・0998SD）は幅が1m前後の規模を持つ東西方向に走るもので屋敷などを区画するものと思われる。井戸0999SEは溝と重複する形で検出された方形縦板組横桟支柱式井戸で、最下部で曲物筒が２段重ねられ水溜としていた。時期は13世紀に属する。Ｂ区北西部からＡ区南東端に走るやや規模が大きい溝はわずかに蛇行しながら走り、流路または水路と思われる。


0015SK
0007SE
A区
0509SP
0631SE
0508SP
0513SD
y=-29650
0528SE
0537SE
0535SD
0640SL
0571SD
B区
0602SD
0984SL
0949SX
C区
y=-29600
y=-87350

1面遺構図


A区
0232SX
0205SX
竪穴状遺構
竪穴状遺構
y=-29650
竪穴状遺構
0679SL
B区
0673SK
C区
y=-29600
y=-87350

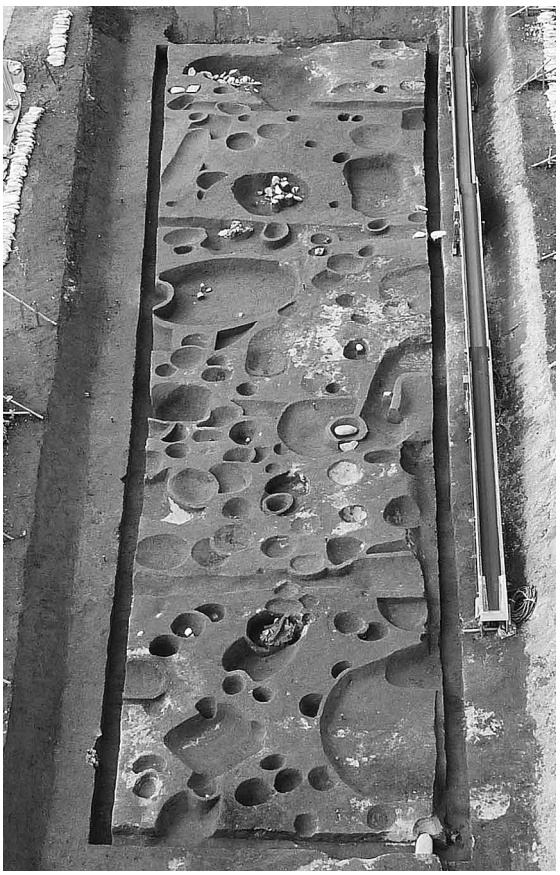
2面遺構図



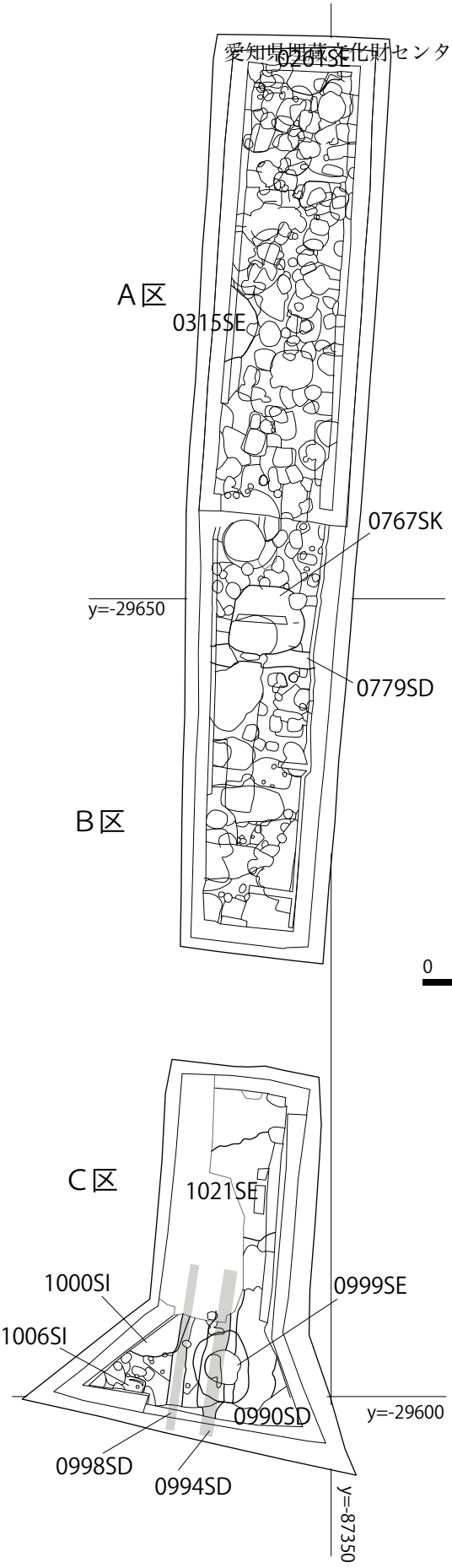
遺跡遠景　南から



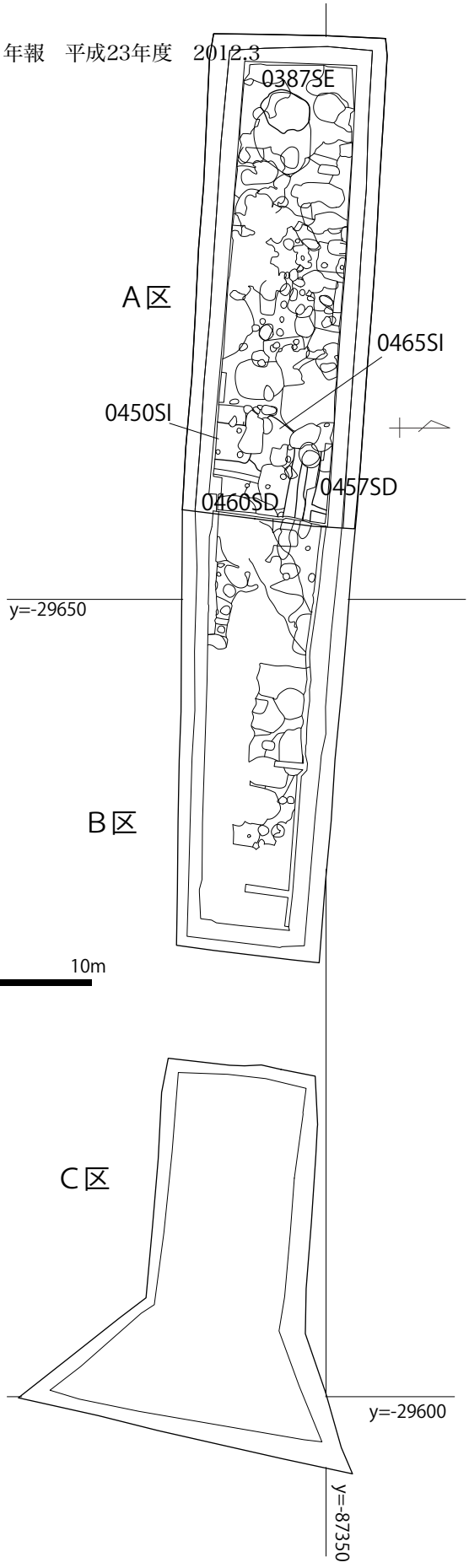
A区２面全景



B区１面全景


0261SE
A区
0315SE
0767SK
y=-29650
0779SD
B区
C区
1021SE
1000SI
0999SE
1006SI
0990SD
y=-29600
0998SD
0994SD
y=-87350

3面遺構図


0387SE
A区
0465SI
0450SI
0457SD
0460SD
y=-29650
B区
C区
y=-29600
y=-87350

4面遺構図

城下町１期（前期前半）　A区東半部からC区にかけて溝や堀などが認められたが、その他の遺構は不明な部分が多い。A区北東部の溝0457SD・0460SDやB区中央の溝0779SDは幅がやや狭いが、C区東部の堀0990SDは幅が約３mを測るものであった。堀0990SDは断面V字状であり、方形の武家屋敷を囲む堀の一部と想定される。ただし、城下町期前期後半？の円形結物筒式井戸1021SEに切られ、その先の行方が不明である。これらの遺構は大窯第１段階の瀬戸美濃窯産陶器などの遺物が出土したことから、16世紀前葉を主体とする時期に属する。

城下町２期（前期後半）～城下町３期（後期）　今回の調査では主体となる時期で遺構の重複は激しく、現段階で２期と３期の峻別も含めた時期区分はできていない。溝・井戸・掘立柱建物跡など屋敷を構成する遺構の他に、方形竪穴状遺構・炉跡・長方形土坑・大型土坑・円礫埋設遺構など特異な遺構が多く認められる。

B区１面調査では明瞭な形で町屋と思われる遺構群を確認することができた。溝513SD・535SD・571SD・601SDは5～6m間隔で北北東―南南西方向に平行して走る溝で、その間に掘立柱建物跡と井戸（631SE・528SE・537SE）が検出された。おおよそ南北に細長い屋敷が東西方向に並ぶ短冊型地割が形成されており、町屋であったと想定される。これらの遺構群は出土遺物と天正地震の痕跡との関係などから城下町期３期に属する。A区およびC区ではうまく屋敷割が確認できなかったが、特にA区の井戸（261SE・315SEなど）の配列などからみて、同様の町屋が存在したと推測される。

各屋敷では、井戸や建物跡の他に炉跡・長方形土坑・円礫埋設遺構などが展開する。炉跡またはそれらしき遺構は数基存在するが、0640SLは黄灰色粘質シルトを整地して作られたもので、上部の堆積物から微小鉄片などが出土した。0640SLの下位にも数面の整地面が認められ、そのうち１ヶ所の別の地点で炉跡（0679SL）が検出されており、繰り返し作業面が造成されて炉が構築されたものとみられる。下位の整地面は浅く掘り凹められた竪穴状遺構の床面となっており、0640SLも本来は竪穴状遺構の内部に作られたものだろう。炉跡とはやや離れた場所で円礫埋設遺構が存在する。区画溝に接する位置で２基並ぶケースが多く、0508SPの円礫表面には紫褐色の付着物が確認された。長方形土坑の内部には焼土・炭化物が互層状に多量に堆積していた。周囲で椀型鉄滓や炉材・焼土・炭化物・少量の鋳型片など金属関連遺物が多量に出土しており、鍛錬鍛冶工程を中心とした金属加工を操業していた屋敷と考えられる。また、C区では、床に厚くシルトを貼付け一部が被熱した遺構0949SXがある。このシルト面は合計４回以上造り直されており、鋳造に関連する遺構の可能性が考えられる。

これらの遺構群の下層では、繰り返し炭化物が入る長方形土坑など、多くの遺構群が構築されており、最古段階に位置づけられるものとして大型土坑数基（0767SKなど）が存在する。一辺が５mを超える隅丸長方形プランを呈し、椀型鉄滓や焼土・炭化物が集中して廃棄される部分の他は地山班土で埋め立てられていた。これらの遺構からは大窯第２段階以降の遺物が出土しており、城下町期２期に属すると思われる。

天正地震の痕跡　今回の調査では、旧流路埋積部を中心に地震による液状化現象の痕跡が多数発見されている。下位の遺構は埋土が揺らされたWeb構造が認められ噴砂が貫くものが多く、上位の遺構はWeb構造が観察されず噴砂上に構築されるものが目立つ。時期の判断は慎重を要するが、これらの液状化現象をもたらした地震は天正13年11月に発生した天正地震と推測され、これを基準に時期区分を行うことも可能である。ただし、天正地震を境に大きく遺構配置が変更された形跡は認め難い状況であることから、城下町期２期からひきつづき



0450SI



C区３面全景



1000SI・1006SI



0999SE上部



中世の水路？



0999SE水溜部

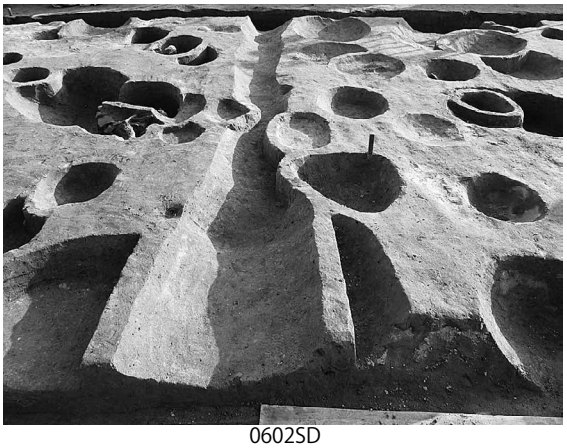


0315SE土層断面

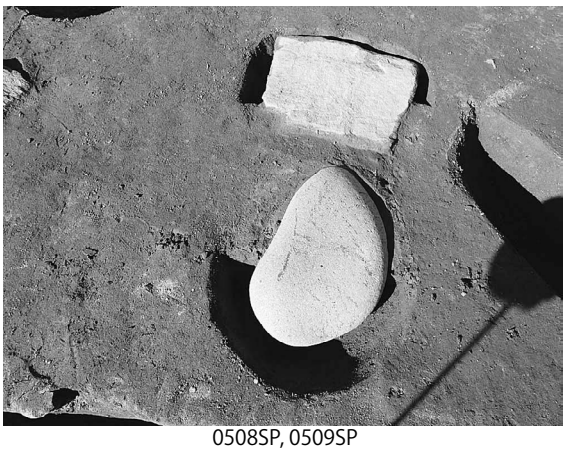


0990SD


竪穴状遺構


0602SD


0640SL検出状況


0508SP, 0509SP


0640SL土層断面


0949SX


0205SX遺物出土状況


0205SX土層断面



0767SK



0673SK土層断面



B区竪穴状遺構群



0637SK出土状況



地震痕土層断面



0015SK出土状況

３期にかけても鍛冶職人らが集中して操業していたと考えられる。

宿場町期　A区西端部で常滑窯産陶器甕を埋設した土坑0015SKや井戸0007SEなどが確認されたが、他の地点ではほとんど遺構は存在しなかった。調査区は美濃街道に面する屋敷の裏手であったといえる。遺物には「秋二焼」碗など18～19世紀の陶磁器類が出土した。

ま と め　今回の調査では、城下町期２期以降の金属製品生産に関わる遺構群が確認され、少なくとも城下町期３期（後期）では短冊型地割の町屋内で鍛錬鍛冶工程などが行われていたことが想定される。前期清須城の武家屋敷外縁部でこのような遺構群が検出されたことは、清須城下町の発展過程を考察する上で重要な成果となるであろう。（鈴木正貴）

大平本城（おおだいらほんじょう）

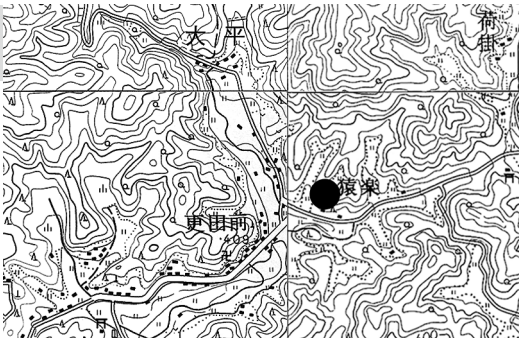
所　在　地　豊田市大平町下屋敷
（北緯35 度15 分7 秒 東経137 度14 分46 秒）

調 査 理 由　急傾斜地崩壊対策事業

調 査 期 間　平成23 年10・11月

調 査 面 積　310 ㎡

担　当　者　池本正明



調査地点（1/2.5万「多治見・猿投山・猿爪・小渡」

調査の経過　急傾斜地崩壊対策事業に先立つもので、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受けて実施した。

立地と環境　大平本城跡は現在の大平の集落を南西に見下ろすような尾根上に位置している。城郭は南側に伸びる尾根の先端部を残して堀切を設定した立地となっている。現存しないが、北西側の尾根続きにも堀切が存在した事が知られており、二つの堀切で丘陵の南北を区切って主郭とした構造となっている。主郭の東側は最大高が4mを超える土塁が設定されており、西側に強い方向性が観察できる。なお、北側に展開する谷の対岸、西側に伸びる丘陵端部には大平姫城跡が位置している。両者の位置関係から、大平姫城は大平本城と一連の存在であった事も推定されている。

この城跡は、『小原村誌』によれば、大内下総守久政の居城で、文正元（1466）年に松平信光の攻撃により落城したと記述されている。しかし、南西部の堀の形状などに戦国時代から登場する構造も指摘されており、15世紀以降も城郭が存在したものと評価されている。

調査の概要　今回の調査地点は、城郭の南西部に該当する。調査区では二条の土塁（11A区004SA・11C区006SA）とこれに挟まれた三か所の平坦面を確認した。平坦面は丘陵側が急峻な斜面となっている。このうち、上段と中段については城郭の時期に存在した事は明らかには出来なかったが、下段の平坦面は城郭の存続時期に存在したとの考えられる。

この平坦面はやや規模も大きく、西側を整地により拡張している。また、南側の土塁（11A区004SA）の端部がわずかに屈曲し、下段の平坦面を回り込むような形状をとる事も確認できる。ここからは近世の遺構（11A区002SK）も確認できるが、16世紀代の土器小片や、スサを混入する焼土塊や炭化物などを多量に含む大型土坑が１基（11A・B区003SK）検出されている。

調査区南北で確認できた土塁は、断ち割り調査の結果いずれも基底部に若干の整地を加えて地山土を盛り上げた構造で、残存状況の良好な南側の土塁（11A区004SA）は全長約14mを確認した。

出土遺物は大半が16世紀に属する。ただし、15世紀代に遡る資料も一部に含まれ、下段の平坦面の整地層からは16世紀後半頃の擂鉢片が１点出土している。前者は『小原村誌』に記される伝承、後者は遺構の観察所見とそれぞれ年代的に一致している。

（池本正明）



調査区遠景　（南から）



11A区全景　（南から）



11A区004SA断面　（西から）

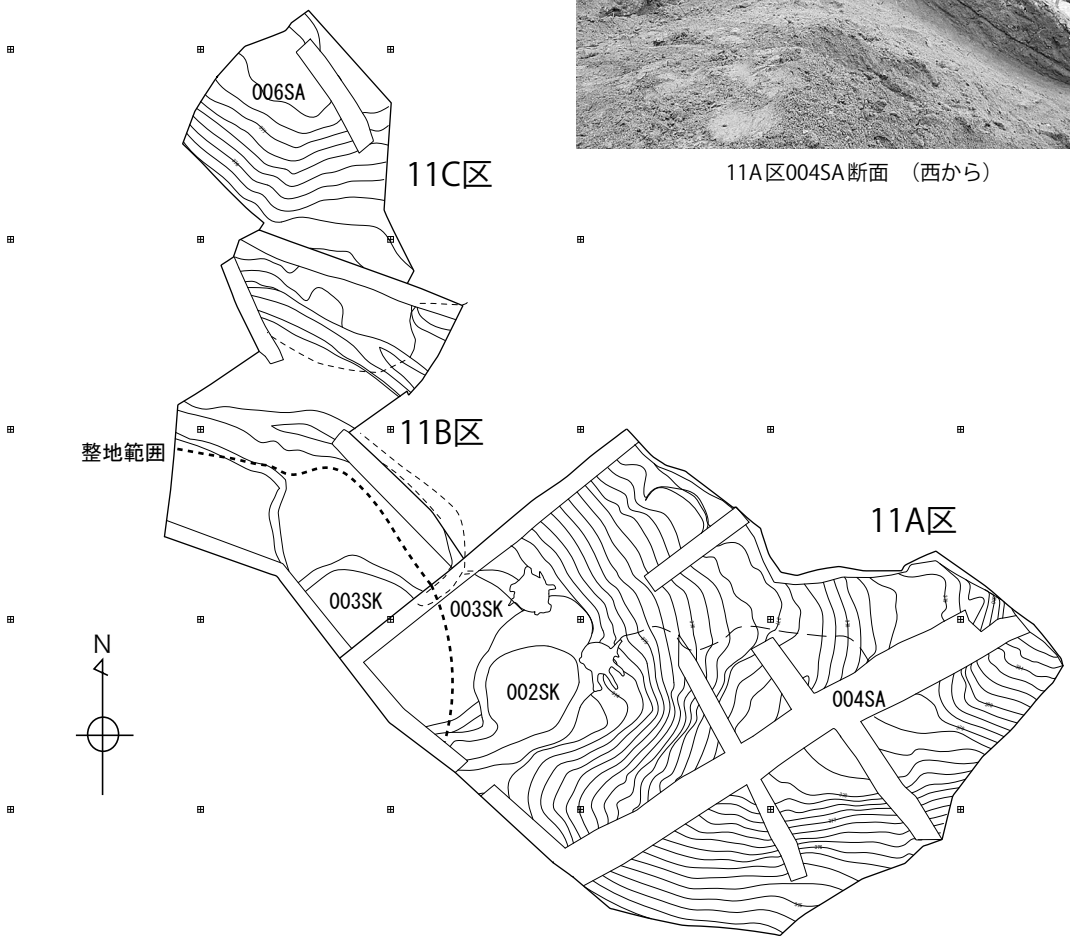


図1　大平本城全体図（1:200）

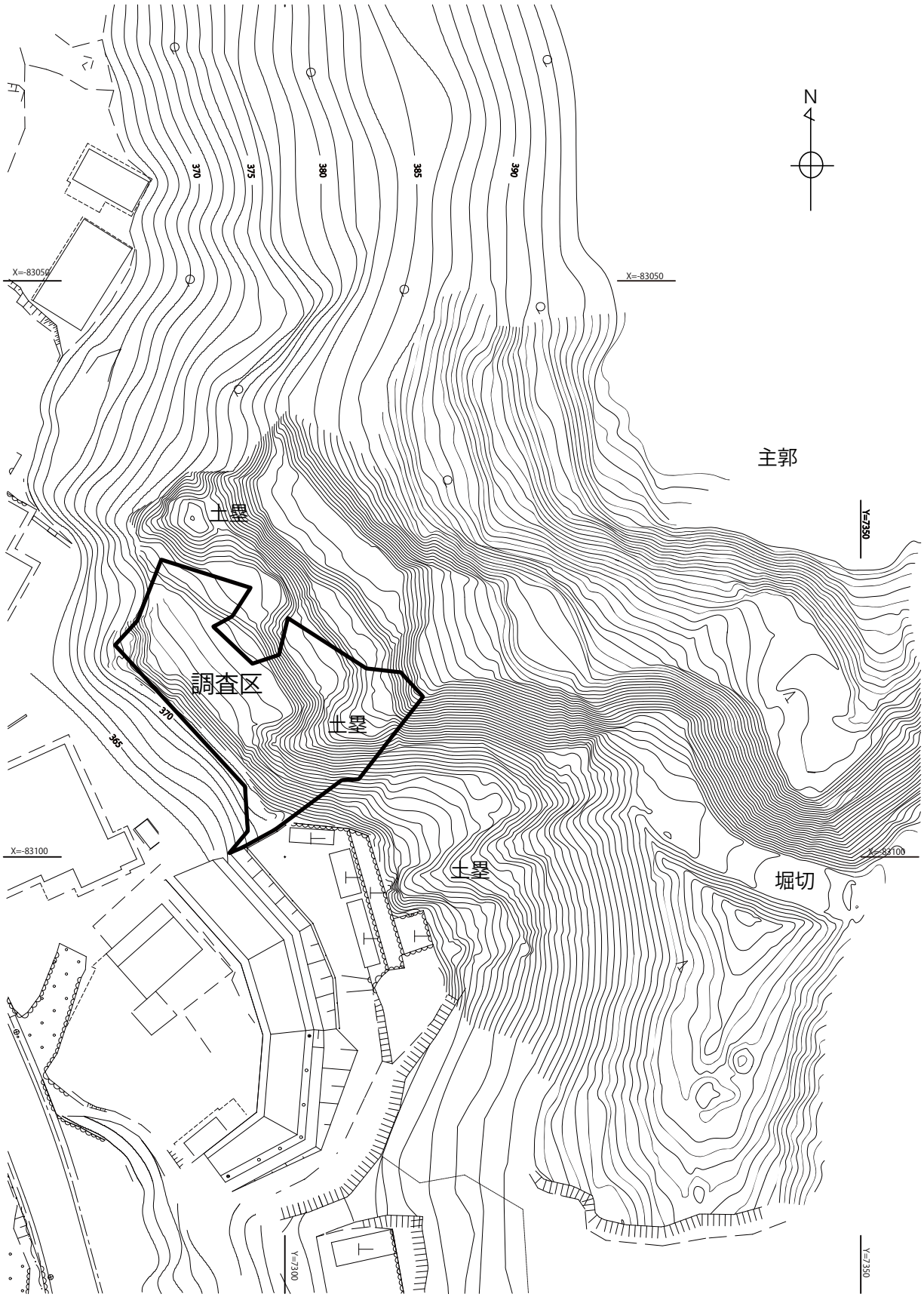


図2　調査区位置図（1:500）

車塚（くるまづか）遺跡

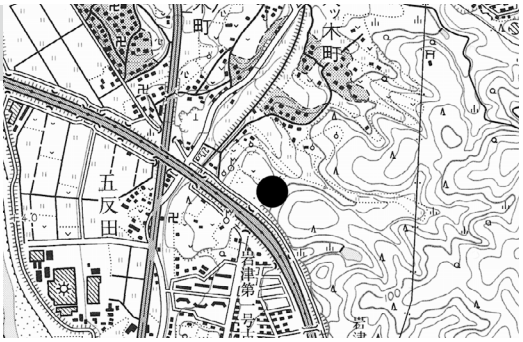
所　在　地　岡崎市岩津町車塚
（北緯35度0分46秒 東経137度10分23秒）

調 査 理 由　道路改良工事（主）岡崎足助線

調 査 期 間　平成23年6月～8月

調 査 面 積　800㎡

担　当　者　池本正明



調査地点（1/2.5万「豊田南部」）

調査の経過　調査は県道岡崎足助線改良工事に先立つもので、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受けて実施した。なお、車塚遺跡の調査は平成20年度からの４年間の継続業務として実施しているが、本年度で完了となる。

立地と環境　車塚遺跡は矢作川左岸に張り出す標高約40m～50mの丘陵端部に位置する。丘陵の南側縁辺部には於御所遺跡が存在し、遺跡の背後の丘陵上やその周囲には岩津古墳群・天神山古墳群・車塚古墳群・八ツ木古墳などの古墳が存在している。

調査の概要　本年度の調査区はA～C区の３地区で、11A区は09区の東側、11B区はその西側、11C区は10区の西側に位置している。以下、調査区毎に概要をまとめる。

11A区は09区の東側に位置している。調査区は長方形を呈する。近接する09区の東側は弥生時代後期～古墳時代初頭に属する竪穴建物と、古代を中心とする掘立柱建物が分布するが、11A区もほぼ類似した内容となる。このうち調査区南側で検出されたやや大型の竪穴建物（112SI）は注目できる。弥生時代終末期に属するもので、東側の隅が調査区外となるが、一辺約10m程度の隅丸正方形を呈する。また、これを切るやや大型の掘立柱建物もやはり東側が調査区外となるが、短辺は約8.0m、長辺は約10.5mまで確認できた。

B区は09区の西側に位置している。調査区は三角形を呈する。近接する09区の西側は遺構が希薄な部分となっており、11B区もこれとよく似た状況となっている。確認できた遺構は、現代の畑の区画溝とほぼ重なる溝（002SD）とこれに直交する溝（001SD）である。いずれも近世以降に属する。

11C区は逆L字状を呈し、10区の西側に位置する部分を11Ca区、ここから西側に伸びる部分を11Cb区に分割する。10区では7世紀代と考えられる古墳８基が集中して確認されているが、これに接する11Ca区では古墳の石室基底部と考えられる集石（060SK）が1基のみ検出できたに過ぎず、これに代わって弥生時代終末期の方形周溝墓が確認できた。方形周溝墓は10区の北側でも一辺のみ確認されているが、本年度はこれに連続する部分と新たに２基の方形周溝墓を検出した。方形周溝墓は08区南側でも2基確認されており、11Ca区北側周辺に方形周溝墓の分布域が存在していたものと考えられる。

ま　と　め　車塚遺跡の発掘調査は４年度に渡ったもので、遺跡の所在する丘陵の頂部を南北に縦断する総面積9640㎡を実施している。検出された遺構は弥生時代～古代が主要な時期になっており、大まかには北側斜面の08区と09区の北側が居住域、南側斜面の09区南側と10区、11Ca区が墓域と考えられ、南側に面した緩斜面上部に古墳と方形周溝墓が分布域を異にしていることが確認できた。一部の方形周溝墓の周溝からは、最上層で奈良時代頃の須恵器が出土している。古墳群を築造する段階では方形周溝墓の溝が完全に埋まった状態ではなく、古墳の築造時にこれらを避けたものと考えられる。（池本正明）

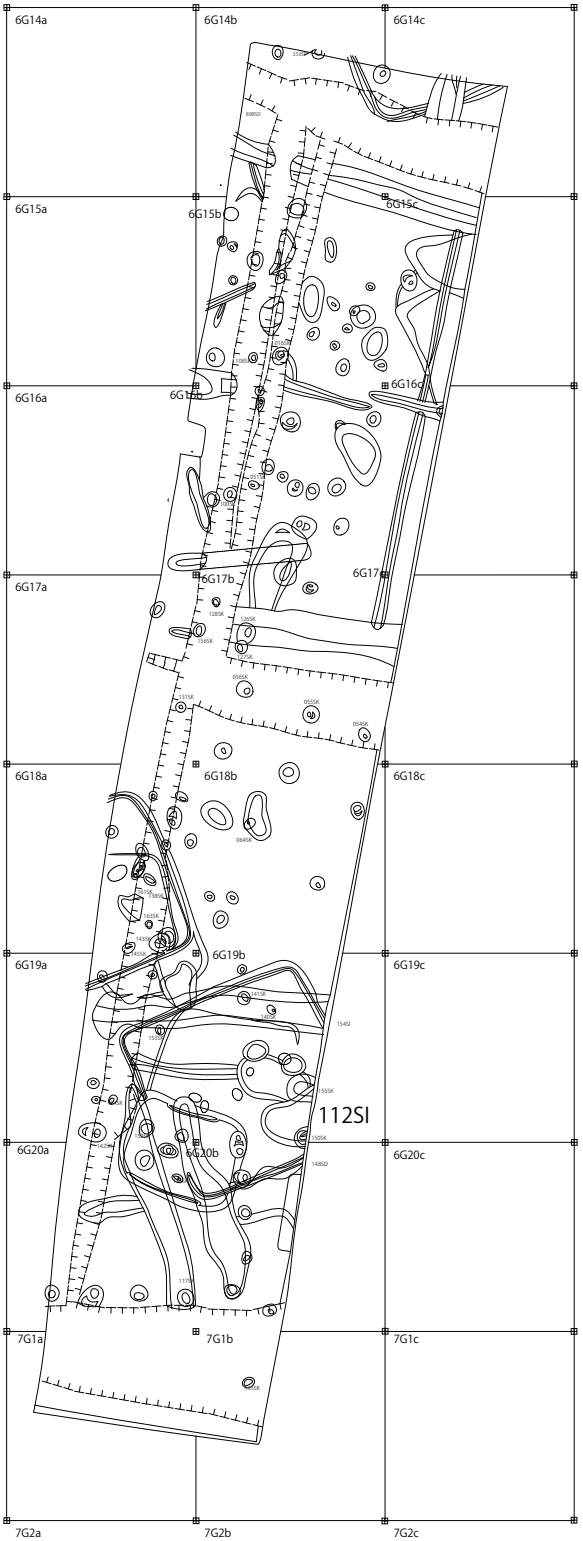


図 1　A 区全体図（1:200）

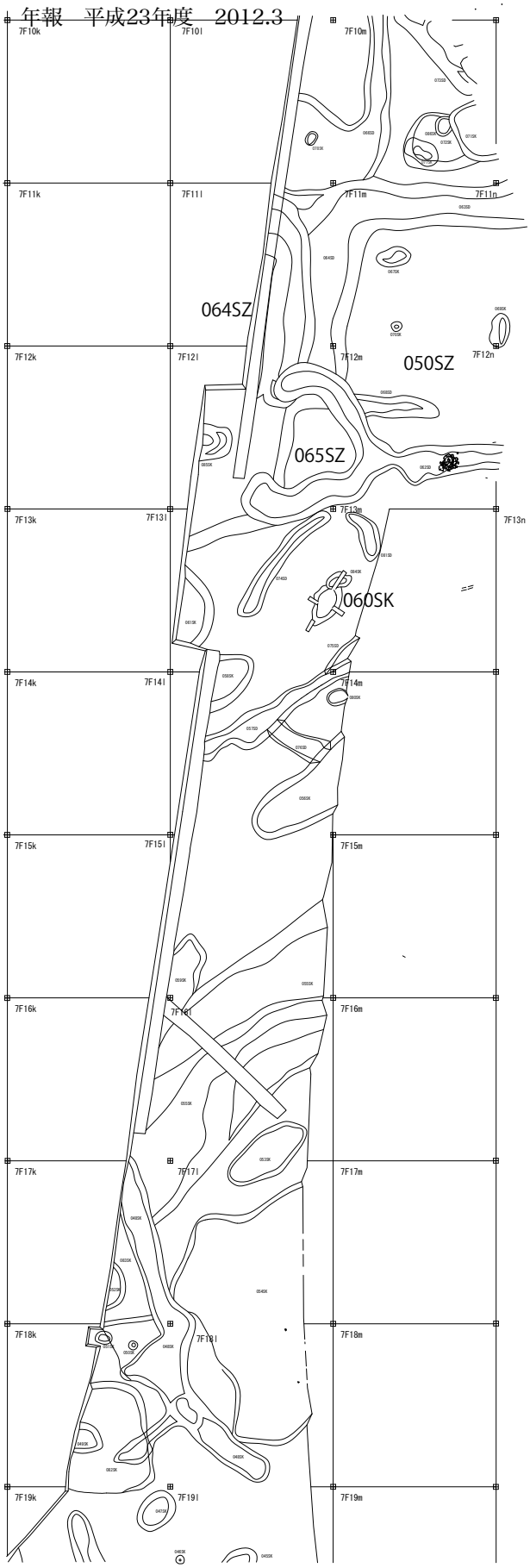


図 2　Cb 区主要部分図（1:200）

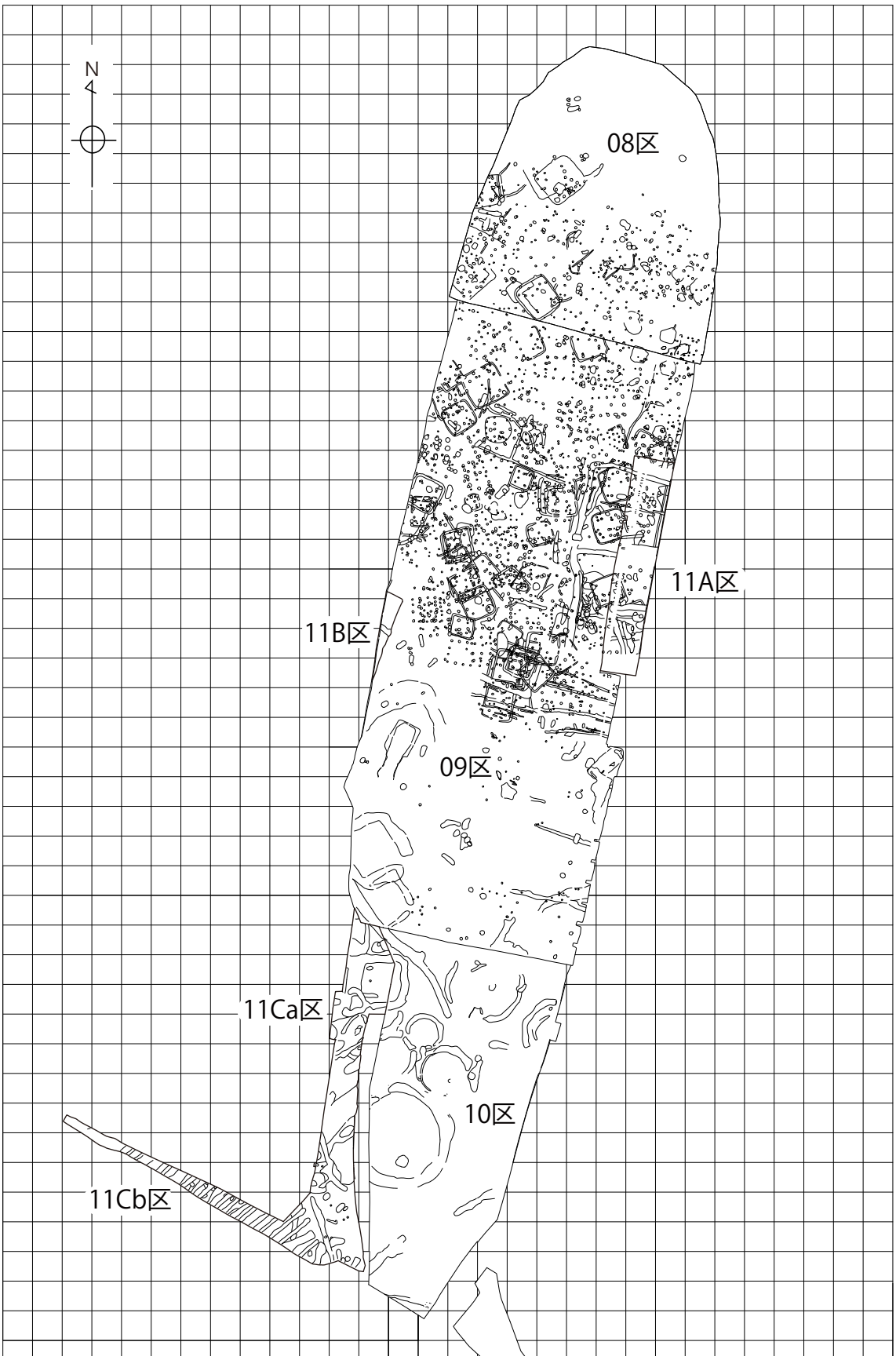


図 3　調査区全体図（1:1000）



A 区全景　（南から）



A 区 112SI　（西から）



A 区掘立柱建物　（西から）



B 区全景　（北から）



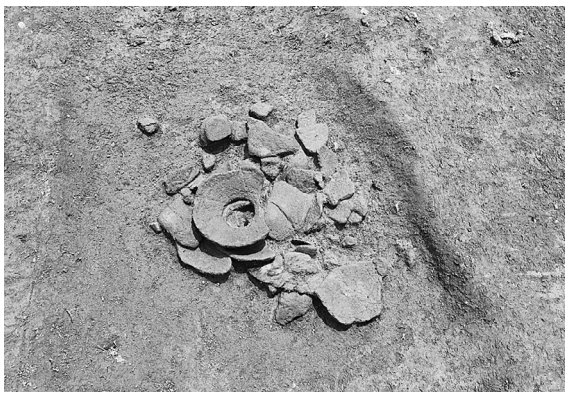
Ca 区 060SK (西から)



Ca 区方形周溝墓　（北から）



Ca 区方形周溝墓　（南から）



Ca 区方形周溝墓遺物出土状況　（西から）

岡山南遺跡（おかやまみなみ）

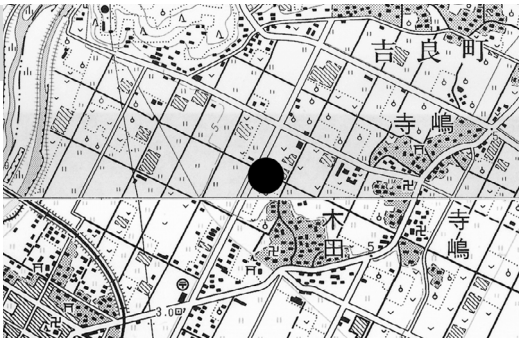
所　在　地　西尾市吉良町木田
(北緯34度50分14秒 東経137度4分40秒)

調 査 理 由　道路改良工事　一般県道西尾幡豆線

調 査 期 間　平成23年12月～平成24年2月

調 査 面 積　910㎡

担　当　者　池本正明



調査地点（1/2.5万「西尾・吉田」）

調査の経過　県道西尾幡豆線改良工事に先立つもので、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じて、愛知県埋蔵文化財センターが委託を受けて実施した。

立地と環境　岡山南遺跡は矢作（古）川左岸の微高地状に位置している。周辺の遺跡としては、北側に所在する「岡山」と地元で通称される丘陵上に、弥生時代終末期を主体とする集落遺跡である中根山遺跡や、吉良八幡山古墳や若宮第１号墳をはじめとする前期～中期古墳が数基所在している。

調査の概要　調査区は中央に位置する水路によりA・B区に二分割して実施した。検出できた遺構は、江戸時代、奈良・平安時代、古墳時代に区分できるが、これらは特にB区で検出面の差にもなっており、上面から順に第１～３面と呼称している。

第1面は井戸・土坑・溝を確認した。このうち幅の狭い溝が主体となるが、分布は希薄となる。後述する旧河道はこの段階ではほぼ埋没しているが、B区ではこの上面から掘削された井戸（010SE）が確認できた。第2面はB区で２棟が切り合う竪穴建物を確認した。このうち残存状況が良好な030SIは、一辺5m程度となる。北辺中央には焼土や炭化物を含む土坑が確認できたが、この部分にカマドが設置されていたものと考えられる。第3面も検出できた遺構は希薄だが土坑・溝などがあり、幅20m程度の旧河道の両側に展開する。

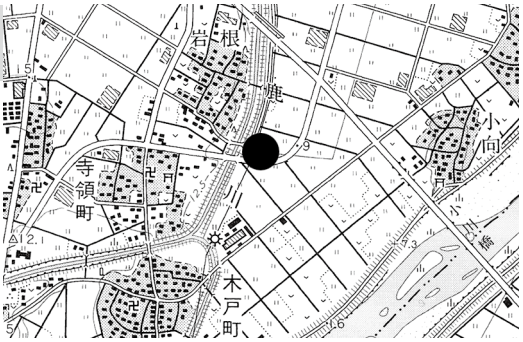
調査区は微高地の端部に位置しており、遺跡の縁辺部と考えられる。出土遺物も多量とは言えないが、時期毎に特徴的な器種や、残存状況の良好な資料も含まれている。なお、旧河道の出土遺物にはローリングを著しく受けた弥生時代中期の資料も含まれており、当該期の遺構が近隣に存在している可能性もある。　（池本正明）


B区第２面全景　（西から）


B区竪穴建物　（南から）

惣作（そうさく）遺跡

所　在　地　安城市木戸町
（北緯34度54分00秒 東経137度5分38秒）
調 査 理 由　床上浸水対策特別緊急事業（鹿乗川）
調 査 期 間　平成23年11月～平成24年１月
調 査 面 積　2,200㎡
担　当　者　松田 訓・永井邦仁



調査地点（1/2.5万「安城・西尾」）

調査の経過　調査は、鹿乗川改修工事にかかる事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。当該遺跡は、これまでに当センターによって3度（平成16・20・21年度）発掘調査が実施され、近接して安城市教育委員会による発掘調査も1度実施されている。

立地と環境　遺跡は、安城市東部の鹿乗川とその左岸の沖積地上に展開する。現在の鹿乗川流路は碧海台地東縁崖下の南北を直線的に流れるが、これまでの発掘調査で、古代以前は大きく蛇行していたことが判明しており、遺跡は旧流路とその周囲の自然堤防上に立地する集落遺構で構成される。集落遺構は弥生時代中～後期、古墳時代前期、古代のものが確認されている。

調査の概要　調査区は、鹿乗川とその東に併行する用水路との間にある通称「中堤」を対象として設定した。幅160m×長さ18mの対象地を南から11A・B区の順で調査した。ここでは調査の中心となった11A区の概要を報告する。

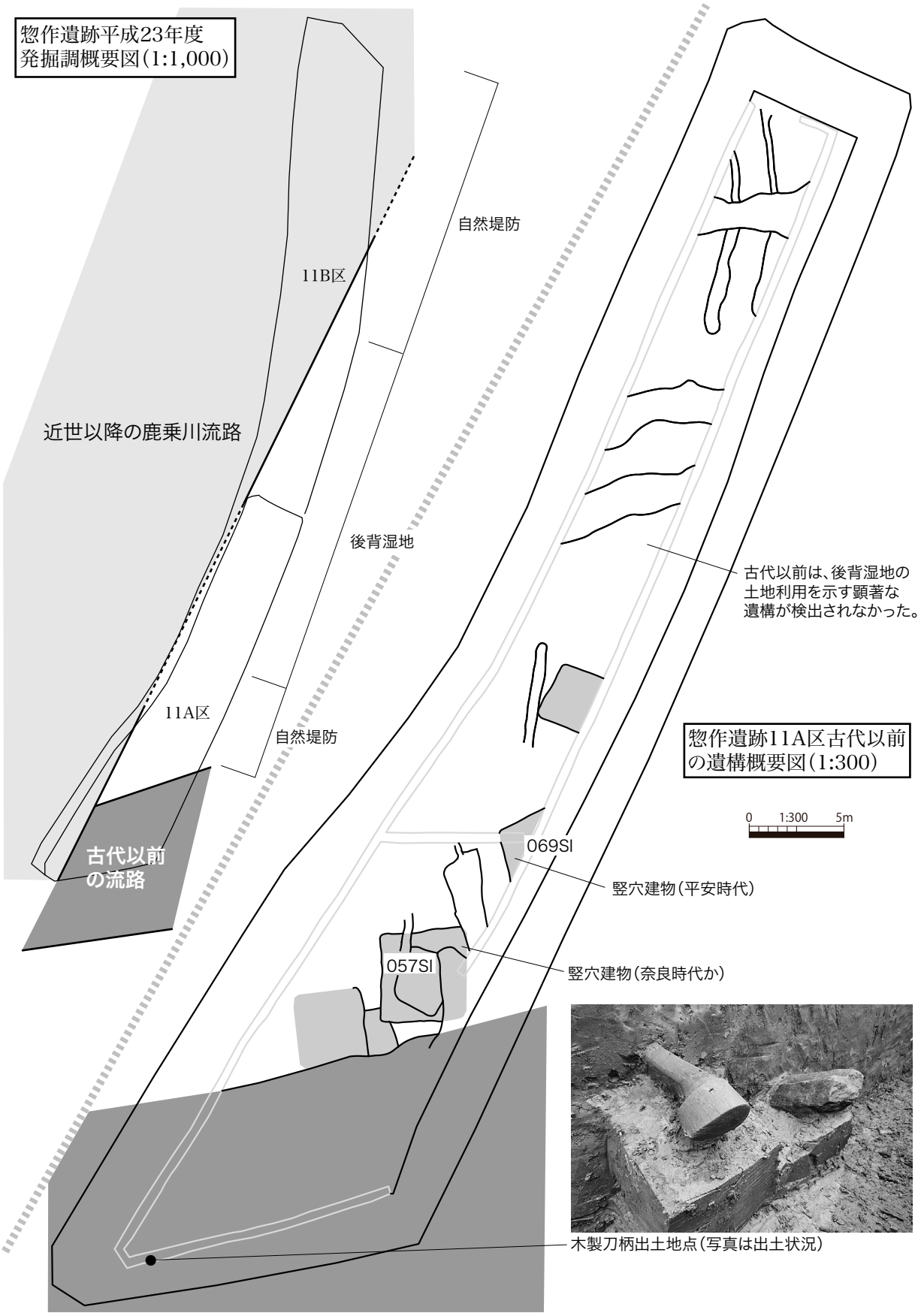
11A区では、調査区南端で流路堆積の一部を検出し、その北側で幅約20mの自然堤防の頂部、さらにその北側で後背湿地となる自然地形を検出した。

流路は概ね上下2層に区分され上層（黒褐色粘土層）で古墳時代前期から奈良時代までの遺物が、そして下層（灰色砂質シルト層）で古墳時代初頭の遺物がそれぞれ包含されていることを確認した。検出範囲はほぼ平らともいえる緩斜面で、調査区南壁でようやく傾斜角度が増している。なお下層より下は極細粒砂主体のラミナ状堆積で、弥生時代以前は水流のある川であったことがわかる。特記すべき遺物は、調査区南壁で出土した木製品刀柄で、古墳時代初頭～前期と考えられる。

自然堤防頂部では、奈良時代から平安時代の竪穴建物６棟を検出した。時期は、包含層での遺物出土状況から8世紀前半と9世紀後半に分けられる。後者（069SI）では墨書のある灰釉陶器も1点出土している。

後背湿地は古代以前の土地利用がほとんどなく、古代末期以降になって水田などの耕作地化が進んだようである。調査区ほぼ全体にみられる黒色粘土層中で畦畔状遺構が検出され、その直上で灰釉陶器・山茶碗が出土している。後背湿地は11B区の南半部まで続き、その北側で09C区でも検出された自然堤防頂部に至る。

近世以降の遺構は、直線化した鹿乗川に関わる土木工事の跡が検出され、杭や陶磁器・漆椀が出土している。　（永井邦仁）



惣作遺跡　平成 23 年度発掘調査の概要



惣作遺跡　11A 区全景（古代の遺構面 南から）



惣作遺跡　11A 区全景（中世の水田遺構 北から）

寄島（よせじま）遺跡

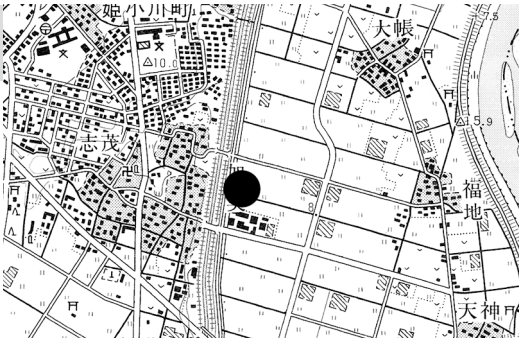
所　在　地　安城市小川町
（北緯34度54分34秒 東経137度05分45秒）

調 査 理 由　交付金事業（鹿乗川）

調 査 期 間　平成23年５月～９月

調 査 面 積　2,135㎡

担　当　者　松田 訓・永井邦仁



調査地点（1/2.5万「安城・西尾」）

調査の経過　調査は、鹿乗川改修工事にかかる事前調査として愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。当該遺跡は平成19年度にも発掘調査を実施しており、今年度はその南側から下懸遺跡までの2,135㎡が対象地となった。平成19年度の発掘調査では、古墳時代初頭を中心とする時期の集落遺構とその南側で方形周溝墓や古墳周溝と考えられる幅広の溝など遺構を検出しており、今回の調査でもそれらの検出が想定された。

立地と環境　遺跡は、碧海台地東縁下を南北に流れる鹿乗川流域の沖積地にあり、その東岸の自然堤防（標高約6.7m）に立地する。ただし鹿乗川の現流路は、江戸時代後半の村絵図に描かれている位置とほぼ同じであるが、それ以前の状況については不明な点が多い。実際に当センターの発掘調査では、平安時代後期までに埋没する流路が各遺跡で検出されており、それは現流路に対し大きく蛇行している。現在のところこれらが旧鹿乗川流路と考えられる。その後中世の流路は不明のままであるが、流路をはじめとする地形環境が一定ではなかったことが発掘調査によって判明しつつある。

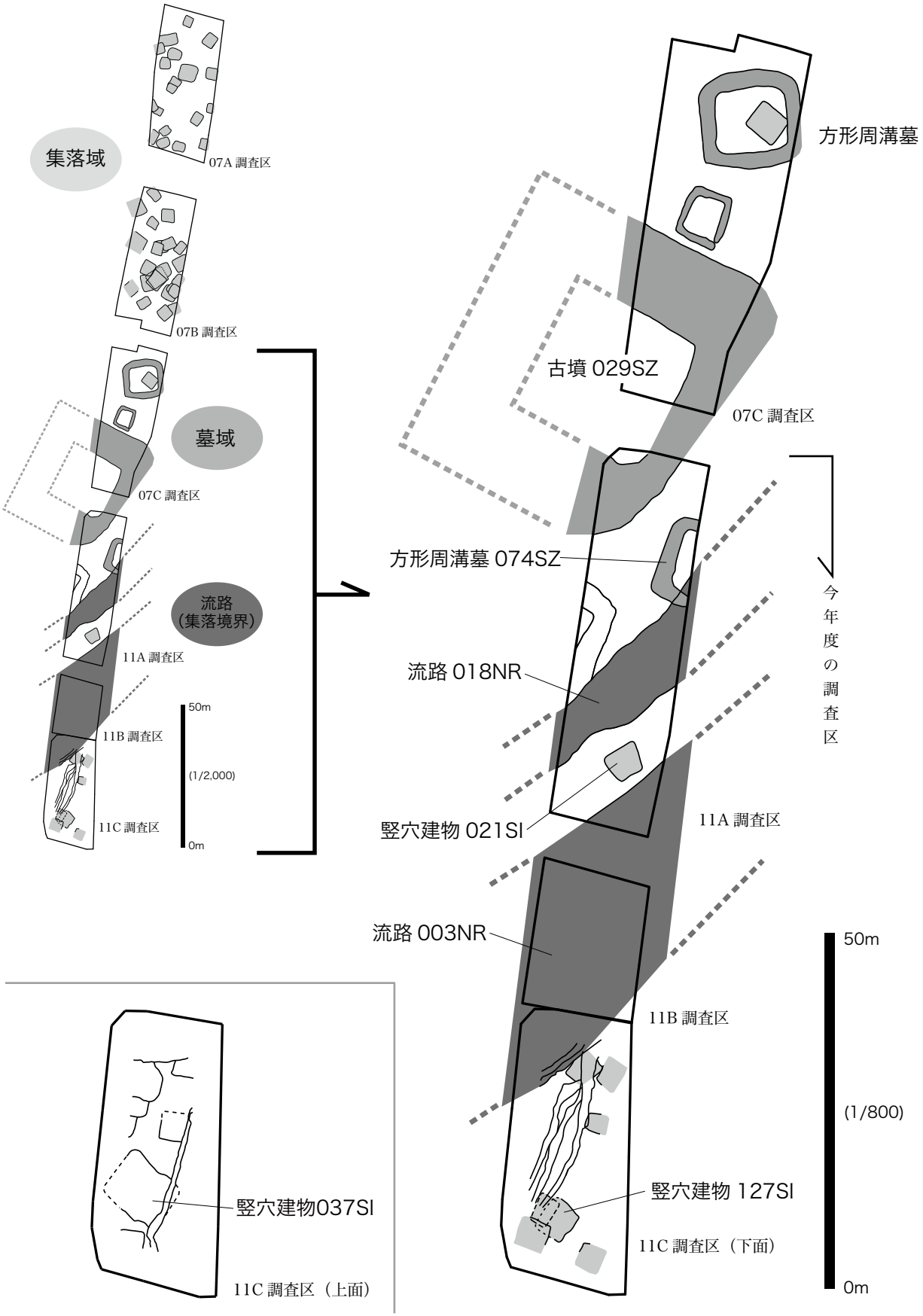
遺跡南側の下懸遺跡では弥生時代末期～古墳時代初頭に、同北側の姫下遺跡では古墳時代前期にそれぞれ最盛期となる集落遺跡が検出され、多数の土器・木製品が出土している。このことから、鹿乗川の旧流路沿いの自然堤防上に多数の集落が同時あるいは近接する時期に展開していたことがわかる。

調査の概要　調査区は北から11A～C区として設定した。それぞれで特徴的な遺構の検出状況となっており、調査区ごとに概要を示す。

11A 区　11A区は南北55mの調査区である。上記の幅広い溝の続きや、方形周溝墓1基、竪穴建物1棟、流路2条などが検出された。

方墳または前方後方墳　幅広の溝（029SZ）は撹乱を受けた部分が多かったが、その形状から方墳もしくは前方後方墳の周溝である可能性が高い。11A区では、墳丘の南東隅にあたる箇所が検出されており、先回の発掘調査（07C区）で検出された同北東隅までの長さは約40mである。これは方墳もしくは後方部の長さに相当する。溝の底面は概ね平らで、墳丘側の立ち上がりは非常に明瞭であった。その後長らく凹地になっていたとみられ、上層（黒褐色水成堆積層）からは山茶碗が出土している。しかしながら周溝掘削時に関わる遺物は寡少であり、その時期を特定するには至っていない。ただ、その南東側に位置する方形周溝墓を避けるようにして立地している点を踏まえると、墓域の中でも比較的最終段階に築造されたものと考えられる。

方形周溝墓　029SZの南東側に接するようにして方形周溝墓074SZが検出された。2カ所の隅部があり、一辺８m規模になると考えられる。周溝の深さは約80cmで、周溝からはほとんど遺物が出土しなかったが、重複して竪穴建物が検出されており、それより後になることが判明



寄島遺跡　平成 23 年度発掘調査の概要

している。

竪穴建物　調査区南部では竪穴建物021SIが、流路2条の間にある細長い自然堤防上で検出された。一辺が4.5mの正方形で壁溝と4本の柱穴を伴っている。ただし炉などの火処は検出されなかった。遺物も寡少で時期の特定はできていないが、概ね古墳時代前期以前と考えられる。

流路　調査区南端では、自然流路が機能低下し沼地状の堆積となった箇所が検出され、流路跡と認識した（001NR）。当該調査区内では顕著な出土遺物はみられなかった。またこの流路から自然堤防を挟んで北側13mの地点では、後背湿地の堆積が検出されこれも流路跡とした（018NR）。018NRでは併行する小溝群が検出され、湿地での耕作が行われていたものと考えられる。

11B区　11B区では調査区の大半を、11A区南端から続く自然流路の湿地状堆積が占めている。その幅は約22mで、下懸遺跡・惣作遺跡で検出された同様の遺構より規模は小さい。このことからこの流路は旧鹿乗川流路の本流ではなく、それに合流する支流であったと考えられる。

流路南岸付近ではその南側の自然堤防上に立地した集落から土器や木製品などが多数廃棄されており、それらが累積した状態で出土している。

土器は尾張地域の廻間1式後半段階を中心としており、高杯・壺・甕などがある。中には北陸地域に由来する口縁をもつ甕も出土している。このような土器組成や時期、他地域に系譜のある土器を含む点などは下懸遺跡出土土器の特徴そのものである。したがって当該遺構は下懸遺跡の一部として評価されるべきものといえよう。

木製の品も下懸遺跡の特徴と同様である。掘立柱建物などの建築部材が主体を占め、屋根の垂木とみられる材や梯子が数本出土したことなどが特筆される。しかしながらこれまでの下懸遺跡の調査ではわずかな掘立柱建物しか検出されておらず、さらなる高地での存在が期待される。

11C区　11C区は、自然堤防の頂部にあたり、特に調査区東側にむかってさらに高位傾向にある。そのため近世段階にはかなり削平を受けていたとみられ、竪穴建物などは調査区西半部で検出されている。

平安時代の集落　上位遺構面で検出された大小の竪穴建物は７棟ある。中でも037SIは一辺7.5mの規模でひと際大きい。しかしながらいずれも削平によって床面以下が残存するにとどまっている。その掘り方内からはK-90号窯期の灰釉陶器が出土していることから、平安時代中～後期のものと考えられる。これらの竪穴建物跡を切り込む遺構からは山茶碗とその上位包含層から戦国時代の土師器鍋が出土しており、中世以降も集落であった可能性が高い。鹿乗川流域の沖積地上ではそれほど多くの中世集落は確認されていないため注目される。また、竪穴建物に先行する奈良時代の遺物として桶巻き作りの丸・平瓦片が多数出土しており、遺構は検出されていないが瓦葺き建物が存在した可能性が考えられる。

弥生時代の集落　下位遺構面も削平により遺構の残存はわずかではあったが竪穴建物４棟やそれに先行する小溝群を検出した。竪穴建物の時期は出土遺物が少ないため特定しにくいが、北側の流路に廃棄された土器の時期に比定されると考えられる。最も先行する127SIは一辺4.8m規模で炉は伴なっていない。　（永井邦仁）



寄島遺跡　11B 区流路全景（南から）



寄島遺跡　11B 区流路の建築部材出土状況

宮下（みやした）遺跡

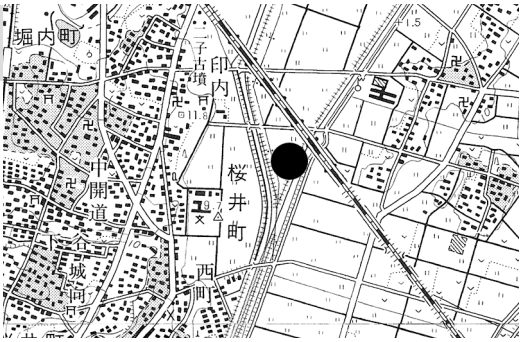
所　在　地　安城市桜井町小社
（北緯34度55分30秒 東経137度6分1秒）

調 査 理 由　交付金事業（鹿乗川）

調 査 期 間　平成23年9月

調 査 面 積　80㎡

担　当　者　松田 訓・永井邦仁



調査地点（1/2.5万「安城・西尾」）

調査の経過　調査は、鹿乗川改修工事にかかる事前調査として、愛知県建設部から愛知県教育委員会を通じた委託事業である。当該遺跡は、これまでに安城市教育委員会によって数次の発掘調査がなされているが、今回の調査区はそこから東方へ約300mの地点にある。

立地と環境　遺跡は、碧海台地東縁下を南北に流れる鹿乗川流域の沖積地上に立地する。鹿乗東川と鹿乗西川の合流地点に位置し、西方の台地上には式内社である桜井神社が所在する。周辺沖積地上は、ほぼ全域が遺跡群として認識されており、弥生時代末期～古墳時代初頭に最盛期となる集落遺跡が多数存在する。

調査の概要　調査区は、鹿乗東川堤防に沿った南北に細長いトレンチ状である。地層は耕作土直下に耕地整理時の造成土、それ以前の耕作土および畦畔があり、その下で遺構面となる。深さは約0.8mである。

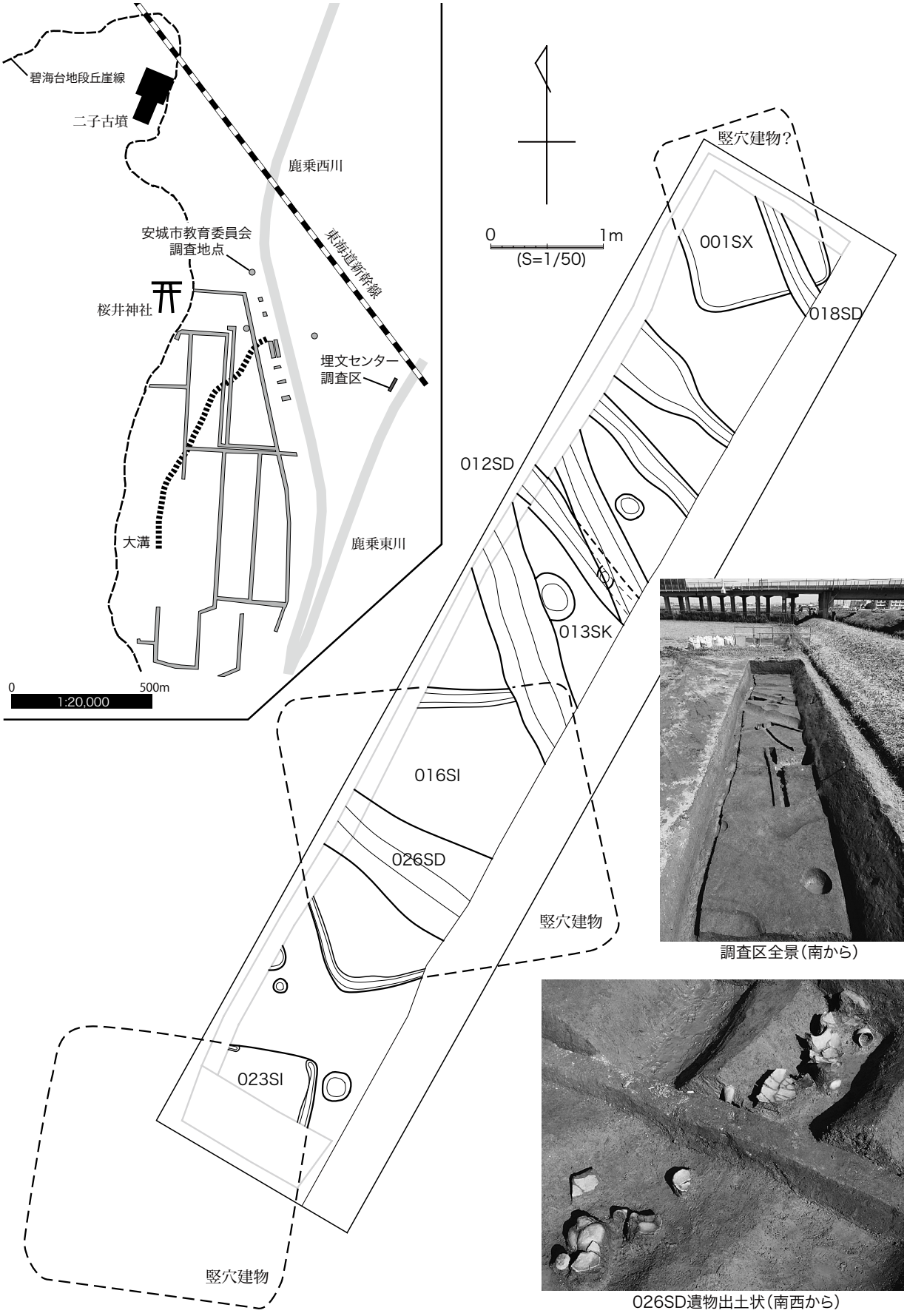
検出された主な遺構は、溝7条、竪穴建物2棟、土坑1基である。

溝026SDは北西～南東方向へ延びる幅0.8m深さ0.3mで、埋土の上層で土師器壺（小型壺）や高杯（屈折脚）が多数出土した。土師器は尾張地域の松河戸II式にほぼ併行し、古墳時代中期前葉に位置づけられる。もうひとつの溝012SDは、ほぼ垂直に掘り込まれすぐに埋められた状態を示しており、一部に柱穴痕を推測させる深い掘り込みも認められた。従って大壁建物や布掘りの掘立柱建物を想定しておきたいが、柱穴については明瞭な痕跡ではなくまた遺物もほとんどなかったことから確定的ではない。

竪穴建物016SIは溝026SDに先行することが切り合い関係から明らかとなった。一辺約3mの方形で壁溝がほぼ全周する。所属が明確な出土遺物がないことから時期不詳であるが、今回の調査区からは弥生土器の出土がなかたことから古墳時代前期に限定される可能性が高い。調査区北端の性格不明遺構001SXは小規模だが竪穴建物の可能性も考えられる。これは灰釉陶器が出土する小溝018SDに先行する。

土坑013SKからは土師器小型壺が出土した。時期は溝026SDと同じであると考えられる。

ま　と　め　今回の発掘調査では、溝026SD出土の古墳時代中期前葉の土師器が大半を占め、その他は7世紀代の須恵器や平安時代の灰釉陶器であった。この遺物相は安城市教育委員会の発掘調査成果でも認められるが、後者ではさらに弥生時代中期から古墳時代前期の遺物も潤沢であり、木製品が多数出土する大溝や墨書土器も存在する。今回の調査区はこれに比較して集落周縁部の様相をうかがわせる。これらの調査成果との比較を通じて遺跡群の全体像を見通していく作業が今後必要となってくるであろう。　（永井邦仁）



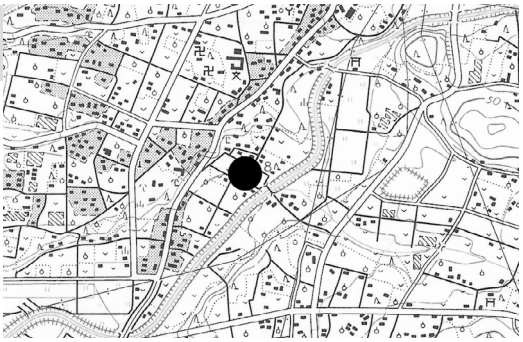
調査区全景（南から）

026SD遺物出土状（南西から）

図１　調査区全体図（1:50）

東下地遺跡（ひがししもじ）

所　在　地　豊橋市石巻本町東下地ほか
（北緯34度47分52秒 東経137度26分16秒）
調 査 理 由　道路改良工事（主）東三河環状線
調 査 期 間　平成23年５月～平成24年３月
調 査 面 積　10,630㎡
担　当　者　永井宏幸・川添和暁


調査地点（1/2.5万「豊橋」）

調査の経過　発掘調査は、主要地方道東三河環状線道路改良事業にかかわる事前調査で、愛知県建設部道路建設課より愛知県教育委員会を通じた委託事業として実施した。調査期間は平成23年5月から平成24年3月、調査面積は10,630㎡である。

立地と環境　東下地遺跡は神田川右岸と豊川左岸の河岸段丘に挟まれた低地に立地する。標高は17m前後である。周辺は遺跡が連綿と続く。なかでも東下地遺跡の西側に隣接する河岸段丘上は古墳群を含む弥生時代後期から古代・中世の高井遺跡が注目できる。

調査の概要　調査は、現況の道路を区切りにA・B・C・D・E区とし、実施した。以下、A区とB区の調査概要を中心に示す。

A区　中世から近世を中心とする遺構群が調査区全体にひろがり、古代以前と考えられる水田跡が調査区北西側を中心に展開する。

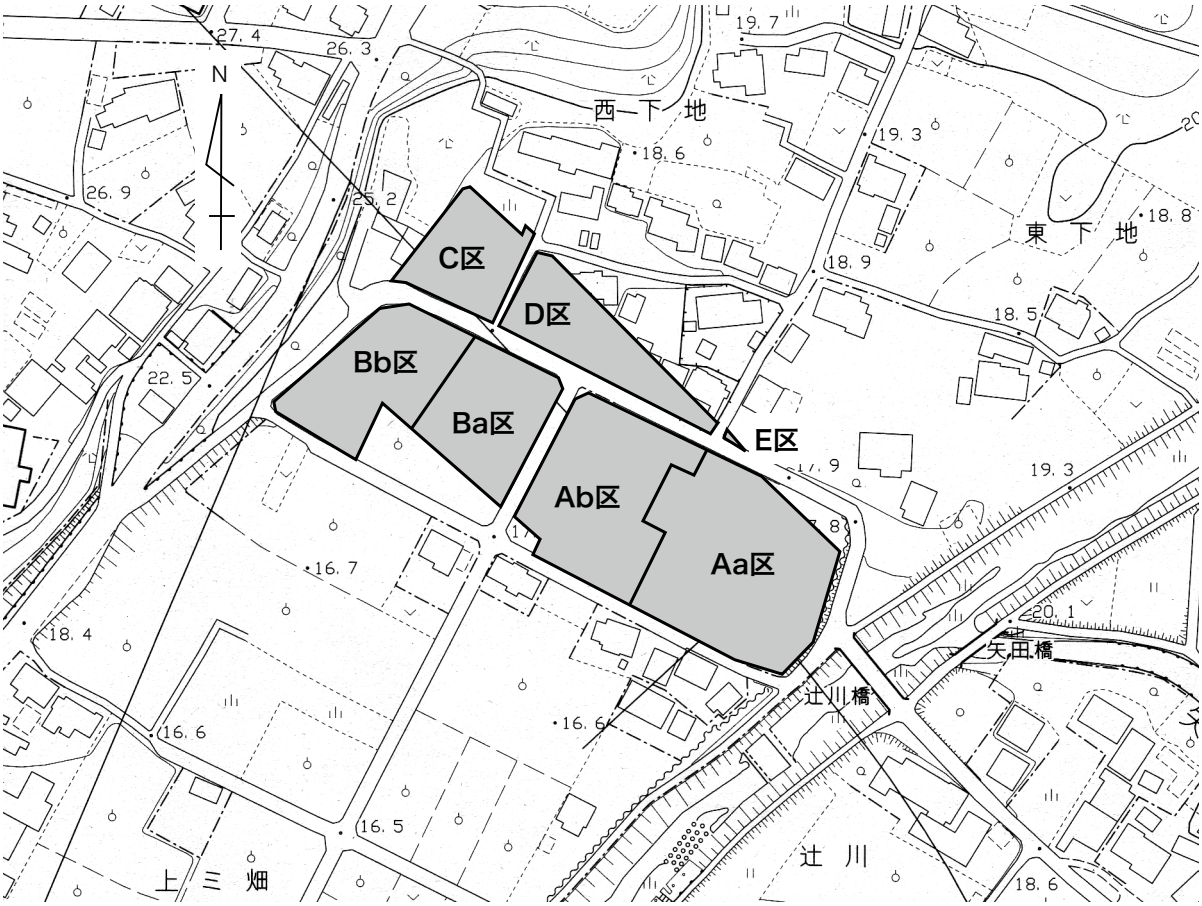


図１　東下地遺跡 調査区配置図（1:2,500）



写真 1　下面の水田跡

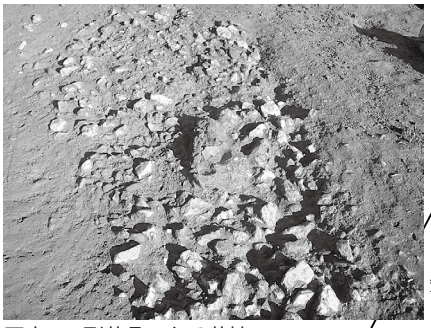


写真 2　副葬品のある墓壙



写真 3　柱穴群全体

写真 4　集石のある土壙

写真 5　流路遺物出土状態

図2　A区遺構全体図（1:500）

水田の調査　古代以前の水田跡は、A区の北西隅を中心に確認した。調査区全体に水田跡の確認できなかった理由としては、古代以降の砂礫層をともなった洪水性の堆積による削平がある。したがって、砂層と細礫層によって削平されずに覆われたところが偶然残存したと想定できる。時期比定が確定できない理由としては、Bb区で検出した畦畔から出土した土器が古墳時代と想定できる以外に、時期比定できる遺物がないからだ。堆積状況と畦畔の配置などから同時期である可能性もある。ただし、幾重にも重なる砂礫層が層順の根拠を混乱させているので、砂層と細礫層によって覆われた箇所を比較するだけでは確定できない。

畦畔の配置は、不定形で一面あたりの面積も３～８㎡で、小区画水田に相当する。畦畔が弧線を描くように緩やかに曲がるありかたが、地形を活かした配置になっている。

中世墓の調査　Ab区東寄りに幅5m、長さ10mの範囲に密集した集石を伴う土壙群がある。

当初は周辺の大礫層がシルト層の厚く堆積する上位に散在していると認識した。ところがこの土壙群の南端、すこし離れたところから不定形に広がる集石を検出した。大礫を除去すると短刀・山茶椀・山皿が重なって出土した。人骨は確認できなかったが、3.4×1.1mの礫敷土壙の上位に、1.5×0.5mの長楕円にシルト層があった。短刀などもこの堆積層から出土していることから、棺を想定したい。

この大型土壙検出をきっかけに、拳大くらいの礫が集積した箇所を精査したところ、25基の土壙を確認した。さらに隣接する箇所に、礫のない土壙も多数あり、都合40基以上の墓壙群となった。

柱穴群の調査　中世墓壙群の西側は細礫に覆われた小土坑を200箇所前後検出した。大きさは径20㎝前後、深さ50㎝ある比較的しっかりとした掘りかたの柱穴が多い。柱痕のあるものも含み、なかには柱の残欠と礎板を確認した柱穴もあった。

中世の河川跡　Ａａ区北東寄りに幅10m前後の蛇行する流路を確認した。検出時は土師器片などがほかの場所に比べて多い程度の認識であった。流路の深度を確かめるためトレンチを数カ所入れると、おもに流路西寄りから13世紀代を中心とする完形品の山茶椀をはじめ遺物の集中する所があった。さらに掘削を進めると、数カ所に大量の遺物投棄があった。なかでも入り江状になった所は大礫が敷かれたように集中し、そこに隣接して山茶椀・桃の種子などがまとまって出土した。

流路の堆積は下位に砂礫層がひろがる。その上位にシルト層が堆積し、とくに流路の岸辺を中心に遺物が出土した。土師器皿が相当量あり、山茶椀より多い。椀皿類を中心に、完形品が多く、使用頻度の高くないものが多い。墨書土器は数点出土している。猿投・瀬戸窯製品の椀・皿類が少量ある。

中世末から近世の溝群　神田川に近いＡａ区東寄りは川の本流部分である。表土近くから中・大礫を中心とした礫層が厚く堆積する。この礫層が途切れる付近に１m前後の段差がある。この段差を利用した縁辺に、溝群がある。とくに下段の溝は幅５m前後ある大溝であった。遺物は15世紀代の土師器鍋がまとまっている所を除くとあまりない。

そのほか、Ａａ区で検出した400基近い土坑などは、ほとんど遺物を含まない浅い掘り込みの遺構であった。土色と土質の明確な差異はない。したがって、人工的な掘り込みではない遺構も相当数ある。そのなかでも土師器皿が20枚程度完形品で出土した土坑、水晶の数珠玉と人骨が出土した土坑はＡｂ区の中世墓群との関連性が指摘できる。（永井宏幸）

B区　B区・C区は、遺跡西端の段丘下に設定した調査区である。西接する段丘はやや舌状に張

り出す形状を呈しており、Bb区中央部付近で最も張り出している。B区は対象面積が広いため、遺跡東側のBa区と西側のBb区に分けて調査を行った。

Ba区　Ba区の層序は、上から、Ⅰ層：表土（20～30cm）、Ⅱ層：黒褐色シルト（20～30cm）、Ⅲ層：砂礫層（最大70cm）、Ⅳ層：灰黄褐色シルト（約30cm）、Ⅴ層：にぶい黄褐色シルト（5～10cm）、Ⅵ層：黄褐色シルトである。Ⅱ層は、調査区全面に広がりが確認できる。やや斑土状を呈する土壌で、ごくわずかに戦国期あるいは近世の陶器片が出土した。畑地など中近世の耕作土であったと考えられる。Ⅲ層は、調査区西側で特に厚い堆積を確認できたもので、西側に展開するにつれて層厚が著しく薄くなる。Ⅳ層は、後述するBb区の成果から、古墳時代の水田耕作土と考えられるが、この調査区では認識が至らず検出し得なかった。Ⅴ層はⅥ層（地山層）への漸位層の様相を呈する層である。この層で、本来ならばⅣ層に存在した水田畦畔の擬似畦畔と、弥生時代前期の土器群の出土をみた。擬似畦畔は5×5m以下の小区画である。弥生時代前期の土器片は自然地形の凹地あるいは自然流路内に土器片が散在している状態で見つかった。ヒトの活動痕跡かも知れないが、活動内容は不明である。

Bb区　Bb区の基本層序はBa区と同様であるが、段丘縁の西側区域とBa区から連続する東側区域とで、様相が大いに異なる。西側区域では、南北に走る大きな自然流路が見つかり、流路内のⅡ層相当層で、小規模な水田を検出した。また、Ⅲ層下の中洲状の低位の高まりでは、地山直上で水田耕作土と考えられる均質なシルト層を確認した。これは後述するC区の水田畦畔に対応するものと考えられる。一方、東側区域では、Ⅳ層上面で、極めて良好な状態で小区画水田を検出することができた。Ⅲ層の堆積が、水田畦畔をパックしていたためと考えられる。水田は配置・構成の異なる２面の水田（上面・下面）を確認できた。上面の水田は３×３m程度の小区画で東側区域全面にわたって見つかった。畦畔内の耕作土からは古墳時代前期から中期にかけての土器片がまとまって出土した。一方、下面の水田は、自然流路際に展開しており、溝・大畦畔・導水路・小区画水田をセットで確認することができた。また、下面水田脇のⅥ層直上では、土坑状の落ち込みと∩形を呈する溝が１セットとなった炉跡が３セット以上重複した状態で見つかった。　（川添和暁）



写真6　東下地遺跡　調査区遠景

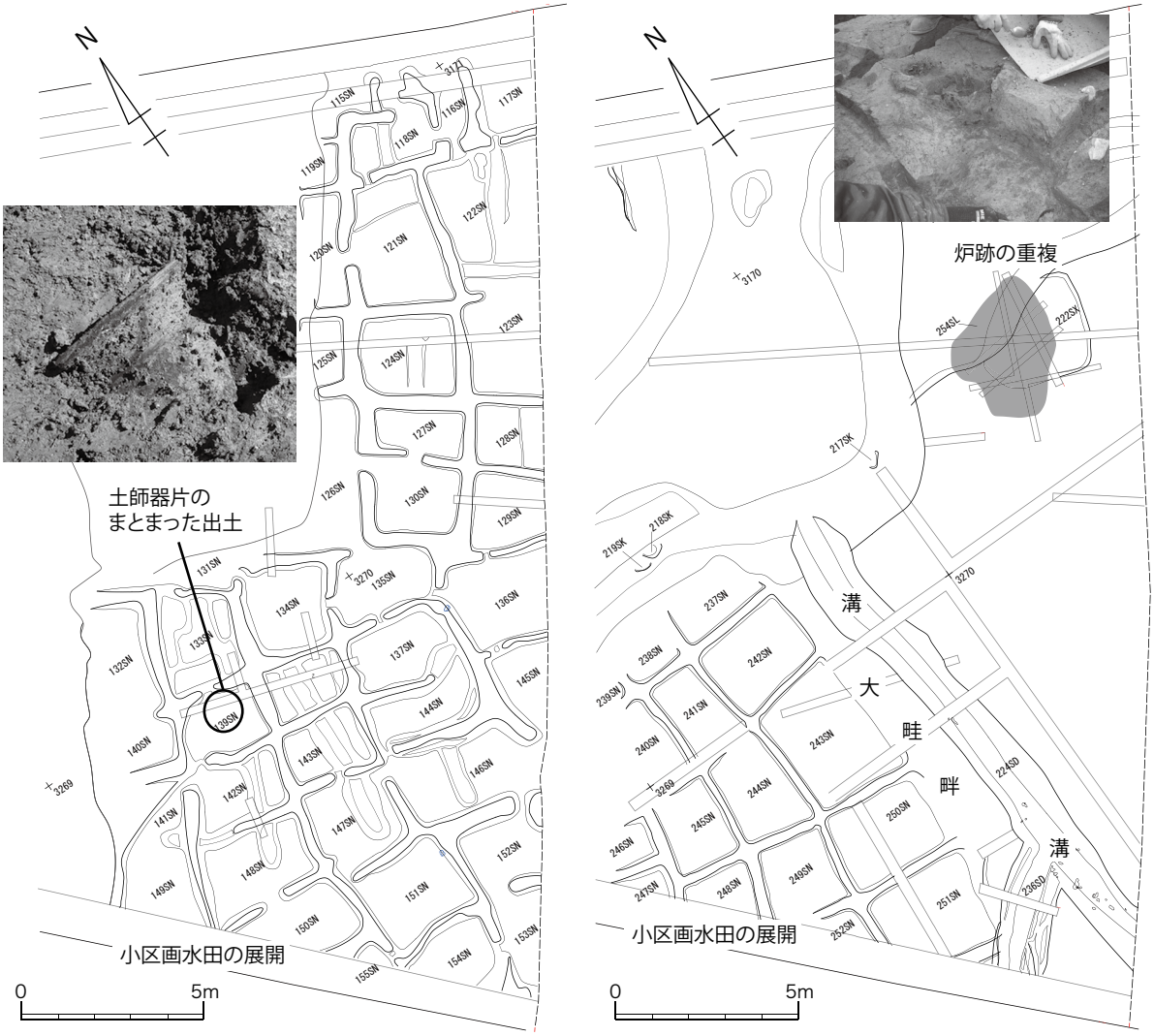


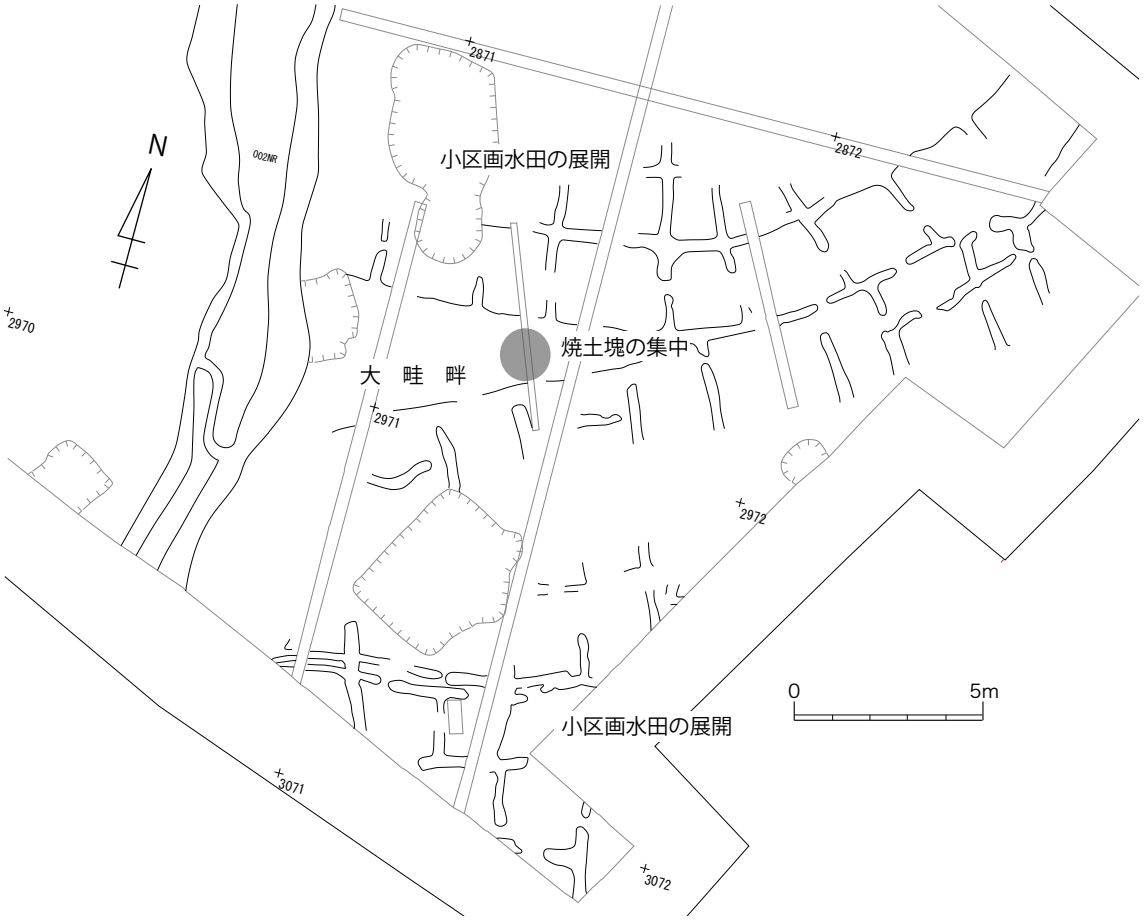
図3　Bb区水田検出状況（1/200）【左：上面、右：下面】



写真6　Bb区水田（上面）検出状況（東より）



写真7　Bb区水田（下面）検出状況（北より）



C区水田検出状況（1/200）

C区　遺跡北西端にあたる位置に設定した調査区である。段丘直下にあたる調査区西側では、Bb区西側区域同様、南北方向に走る自然流路が見つかった。自然流路東側では、北東から南西方向に、地形の傾斜に沿って小区画水田群を確認した。水田は数回営まれているようであるが、配置の変換点にあたる大畦畔状の場所に、焼土および炭化物が集中して出土した。（川添和暁）

D区　中世以降の堆積層は、全面にわたり礫層が覆う。何度も大量の礫をともなう流水性の堆積に削平された結果と考えたい。C区寄りの部分は畑地に相当する堆積があったものの、近代以降の遺物を含む堆積が下位にあった。古代以前の水田はこれら礫層の下位にある。南側に隣接するＡｂ区の水田、西側に隣接するC区の水田と同一層序である。自然地形に沿った小区画水田が調査区西寄りに広がる。（永井宏幸）

ま と め　段丘下の縁辺と神田川の氾濫原に相当する東下地遺跡の調査は、礫層の堆積を理解するのに難航した。縄文後晩期の土器石器、弥生前中期の土器石器、古代須恵器などが礫層から出土した。遺構を伴わない遺物はじつに幅広い時代を含む。

水田跡は古墳時代を中心とする小区画水田が良好に確認できた。砂礫層に覆われた水田は洪水性の堆積により削平されたところも多いが、段丘下縁辺の高低差をうまく利用した水田であった。Bb区では畦畔と水路の配置が異なる上下２面の水田を確認した。

Ａ区を中心とした13世紀代を中心とする墓壙群と柱穴群は、区画溝や井戸を伴わない。つまり中世集落跡の調査事例が屋敷地とする条件に欠ける。墓地とこれに関連する施設を想定したい。河川跡の大量投棄はこれを裏付ける。（永井宏幸）

III. 刊行報告書抄録

第168集　姫下遺跡

姫下遺跡は碧海台地縁辺に沿って流れる鹿乗川の東岸の標高約７mの沖積地に立地し、西岸の台地上には、桜井古墳群中でも最大規模の前方後円墳である姫小川古墳をはじめ多くの古墳が築造される。調査は鹿乗川改良工事に伴う事前調査として、平成17・18年度の二カ年で、合計7420㎡の面積で行われた。

1.条痕文土器を含む土坑や、弥生時代中期後葉の竪穴建物・竪穴状遺構７基・土坑１基が検出されている。

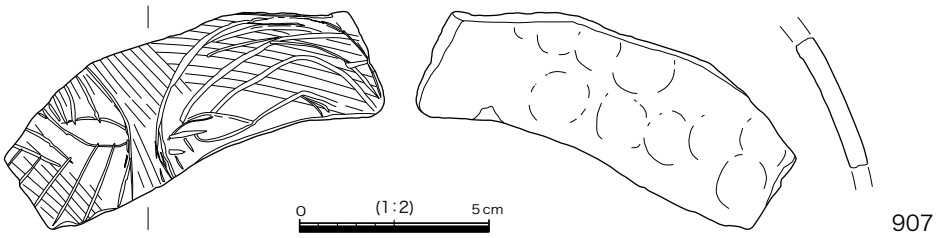
2.古墳時代前期から室町時代前半の竪穴建物・竪穴状遺構272基、掘立柱建物１棟、井戸、溝、土坑が検出され、特に幅の広い周溝状遺構をもつ竪穴建物が注目される。

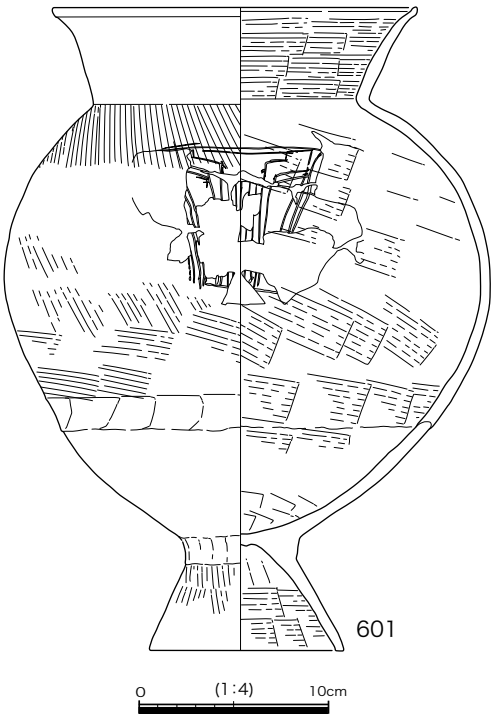
3.居住域の南端では河道が検出された。この河道は弥生時代以前より河道化しており、古墳時代前期になり幅30～40mを測る大きさとなり、河道に直交するように杭列が設けられている。河道内より多量の土器・土製品、木製品が出土している。

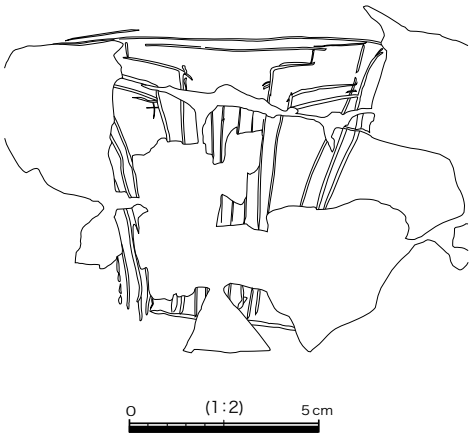
4.遺物の時期は廻間Ⅲ式期から松河戸Ⅰ式期に属し、土器では廻間様式土器群に、丸底甕や屈折脚高坏をもった布留系土器群が加わる。また線刻土器も５点出土し、人面文１点・撥状文１点が含まれる。

5.木製品では大型掘立柱建物の建築部材や掘削具、容器、案・椅子、紡織具、分割材・丸太・杭など多様な器種が出土している。

（宮腰健司）







線刻土器（人面文907・バチ状文601）

報告書抄録

ふりがな	ひめした
書名	姫下遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第168集
編著者名	宮腰健司・鈴木正貴・樋上昇・永井邦仁・株式会社パレオ・ラボ（伊藤茂・丹生越子・廣田正史・瀬谷薫 小林紘一・山形秀樹・Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani・黒沼保子・米田恭子）
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24
発行年	西暦2012年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ひめした 姫下	あんじょうしひめおがわちょうひめした 安城市姫小川町姫下	23213	540121	34°54′52″	137°05′49″	2005年10月～2006年3月	3470㎡	鹿乗川河川改良工事
						2006年10月～2007年3月	3950㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
姫下遺跡	集落	弥生時代 古墳時代 平安時代 鎌倉時代 室町時代 江戸時代	竪穴建物 掘立柱建物 土坑 溝 井戸 河川	弥生土器 土師器 須恵器・灰釉陶器 土製品 木製品 石製品	線刻（人面文1）土器5点 墨書土器7点 案2点・椅子3点

文書番号	発掘届出　（17埋セ第49号・2005.9.20）（18埋セ第47号・2006.9.15） 通知　（17教生第1349号・2005.10.20）（18教生第1672号・2006.10.30） 終了届・保管証・発見届（17埋セ第133号・2006.3.29）（18埋セ第99号・2007.3.14） 監査結果通知（18教生第536号・2006.6.14）（19教生第459号・2007.5.23）

要約	本遺跡は鹿乗川左岸の標高約7mを測る、自然堤防に立地する。弥生時代中期後葉の竪穴建物・竪穴状遺構7基、土坑1、古墳時代前期と平安時代～室町時代前半にかけての竪穴建物・竪穴状遺構が272基、井戸1基や土器廃棄土坑も検出されている。 また、弥生時代から古墳時代にかけての河道が検出され、古墳時代前期の大型掘立柱建物の建築部材や掘削具、案・椅子、紡織具、分割材・丸太・杭など多量の木製品が出土している。

第169集　塚原1号窯跡・若宮1号墳・山口堰堤3号墳

塚原１号窯跡の調査では、塚原１号窯跡・塚原３号窯跡、および灰原・作業空間と、窯業生産に関わる遺構群をも包括して調査を行うことができた。当窯跡は古瀬戸前Ⅱ期・山茶碗第７型式を主体とする13世紀の窯跡である。整理・報告では、出土資料から遺跡形成の様相を復元するために、全出土遺物を対象として、分類・点数集計・重量計測を含む、統計的処理を行なった。その結果、塚原１号窯跡および塚原３号窯跡とでは、山茶碗類小皿など生産の様相について若干様相が異なること、１号窯跡の灰原において古瀬戸類および山茶碗類の廃棄様相が異なること、作業空間としての整地部分における出土遺物の特徴について、明らかにすることができた。特に、出土遺物を詳細に検討した結果、窯構造物への転用や窯道具への転用と、さまざまな場面で二次的利用が行なわれている事例を多く確認できた。

若宮１号墳は丘陵斜面に築造された径10m程度の円墳で、複室系擬似両袖式の横穴式石室を埋葬施設とする。古墳は６世紀後葉から７世紀前葉頃に築造されたと推測される。

山口堰堤３号墳は径14～15mの円墳で、擬似両袖式の横穴式石室を埋葬施設とする。古墳は６世紀後葉に築造されたと推測される。範囲確認調査の結果、古墳は現地に保存されることとなった。

（川添和暁・早野浩二）

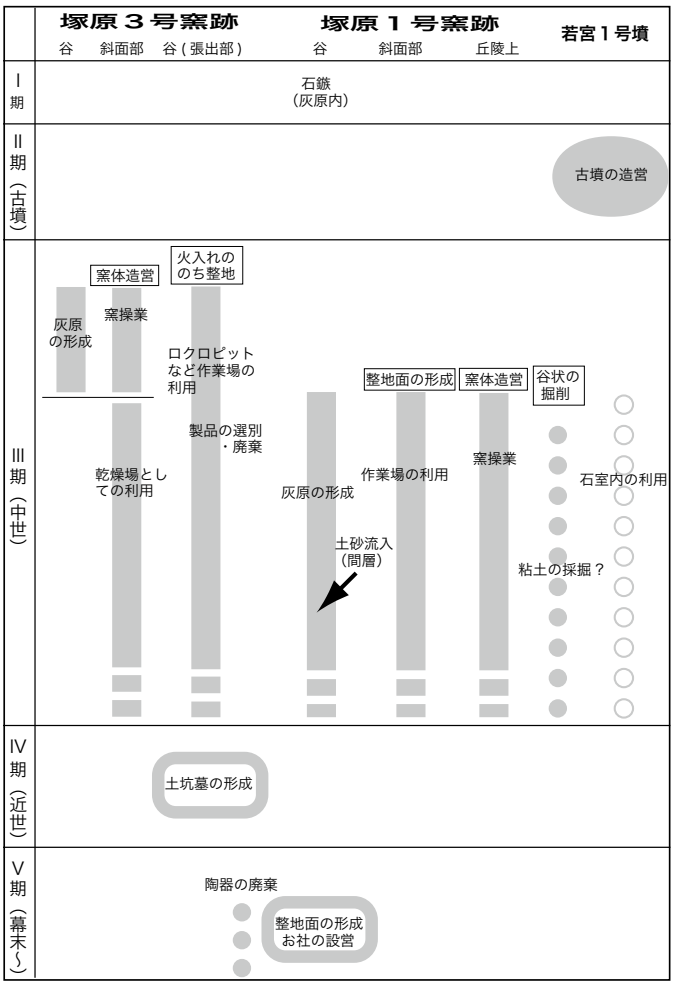


図１　塚原１号窯跡など変遷図

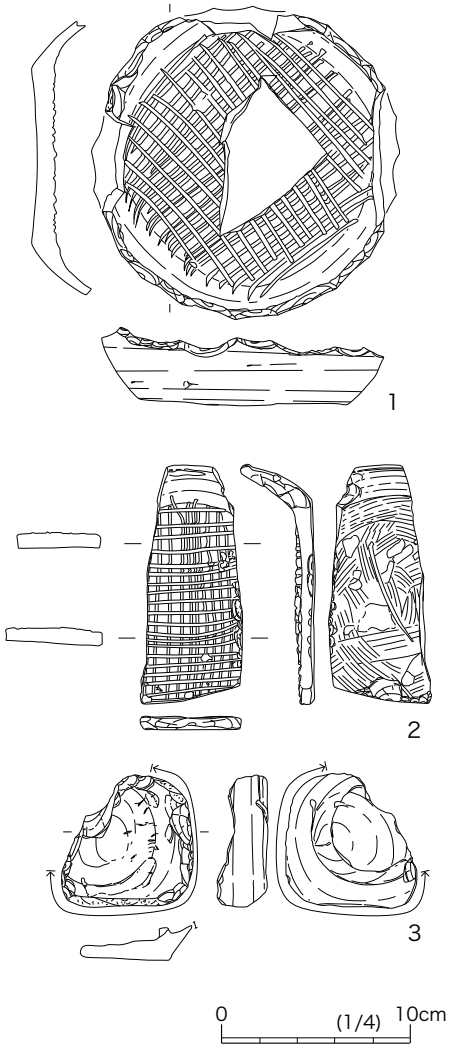


図２　塚原１号窯跡出土遺物（1：４）

報告書抄録

ふりがな	つかはらいちごうかまあと　わかみやいちごうふん　やまぐちえんていさんごうふん
書名	塚原１号窯跡　若宮１号墳　山口堰堤３号墳
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第169集
編著者名	川添和暁・宇佐見守・藤根　久・小林克也・伊藤茂・尾嵜大真・丹生越子・廣田正史・小林紘一 Zaur Lomtatidze・Ineza Jorjoliani 早野浩二・黒沼保子
編集機関	公益財団法人 愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24
発行年月日	西暦2012年3月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積㎡	調査原因
つかはらいちごうかまあと 塚原１号窯跡	せとしわかみやちょう 瀬戸市若宮町	23204	03284	35度20分38秒	137度11分17秒	200608～ 200703	1,240㎡	国道248号線道路改良工事に伴う事前調査
わかみやいちごうふん 若宮１号墳	せとしわかみやちょう 瀬戸市若宮町	23204	03872	35度20分43秒	137度11分20秒	200608～ 200703	270㎡	
やまぐちえんていさんごうふん 山口堰堤３号墳	せとしわかみやちょう 瀬戸市若宮町	23204	02108	35度20分28秒	137度11分16秒	200608	50㎡	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
塚原１号窯跡	窯業遺跡	中世	窯体2・整地層(面)・灰原	古瀬戸類陶器片・山茶碗類陶器片	窯体1基は調査中に発見。(塚原３号窯跡)
		近世	土坑墓	擂鉢など近世陶器	
若宮１号墳	古墳	古墳	横穴式石室・列石	須恵器	横穴式石室は複室系擬似両袖式石室で羨門までが遺存する。
山口堰堤３号墳	古墳	古墳	横穴式石室	須恵器	範囲確認調査の結果、古墳は現地保存された。

文書番号　発掘届出(18埋セ第33号・18.8.7／ 18埋セ第33号・18.8.7／17埋セ第122号・18.3.16)
通知(18教生第1274号・18.9.25／18教生第1274号・18.9.25／17教生第2457号・18.3.31)
終了届(18埋セ110号・19.3.27／18埋セ第111号・19.3.27／18埋セ第38号・18.8.22)
保管証・発見届(18埋セ110号・19.3.27／18埋セ第111号・19.3.27／18埋セ第38号・18.8.22)
鑑査結果通知(19教生第465号19.5.23／19教生第464号19.5.23／18教生第1304号・18.9.25)

要約　塚原１号窯跡の調査では、13世紀代の窯体・作業場・灰原を全面調査できた。特に１号窯の残存状態は良好で、天井の残存や焼台痕の確認など、窯体の構造を考える上で重要な調査事例となった。また、調査中に塚原３号窯跡も新たに見つかり、１号窯跡との関係を詳細に検討することができた。報告では、遺跡形成過程の基礎データーを提示するとともに、製品としての陶器の生産から廃棄にいたるまでの様相を検討することができた。

若宮１号墳は径10m程度の円墳で、横穴式石室を埋葬施設とする。古墳は６世紀後葉から７世紀前葉頃に築造されたと推測される。

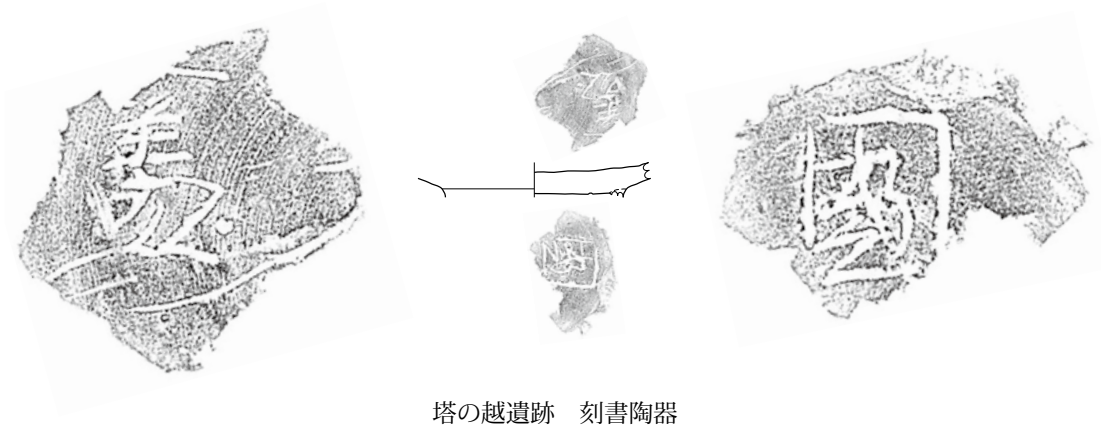
山口堰堤３号墳は径14～15mの円墳で、横穴式石室を埋葬施設とする。古墳は６世紀後葉に築造されたと推測される。古墳は現地保存。

第171集　長野北浦遺跡・塔の越遺跡

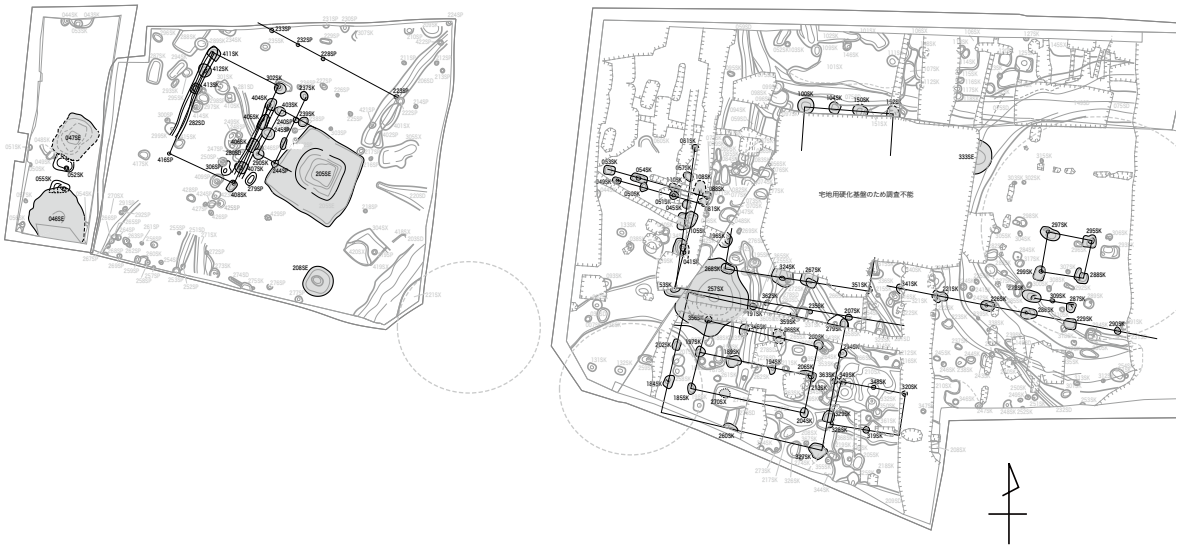
長野北浦遺跡・塔の越遺跡は稲沢市長野・塔の越・治郎丸に所在し、稲沢市の東部、三宅川左岸の自然堤防状に立地する。

発掘調査は、都市計画道路稲沢西春線の建設に伴う事前調査として、平成 19 年から平成 22 年まで実施された。整理と報告書作成作業は平成 22 年度・23 年度に、報告書刊行は平成 23 年度に行った。

長野北浦遺跡・塔の越遺跡の調査によって、古代に関しては南北方向に大溝が掘削されてエリアを画し、そのなかに竪穴建物群や掘立柱建物群が散在している様子を把握することができた。興味深いのは、8 世紀代まではそれら建物群が先行して造営された墳墓群とともに一つの景観を構成している点である。4 世紀に始まり 6 世紀まで続く墳墓群の存在は、この地域が濃尾平野における中心地の一つであったことを示すのであり、その西方に尾張国府（衙）が位置していることとも無関係ではないだろう。もちろん、古墳時代における集落域の実態は不鮮明ではあるが、三宅川に沿う自然堤防が安定した高度を保ち、居住環境として他に優越していることは確かであり、尾張国府を含めた濃尾平野における古代史像を考える上で重要な資料を提供した。　（石黒立人）



塔の越遺跡　刻書陶器



塔の越遺跡　主要建物群と井戸群

報告書抄録

ふりがな	ながのきたうらいせき・とうのこしいせき
書名	長野北浦遺跡・塔の越遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第171集
編著者名	石黒立人・樋上　昇・永井邦仁・早野浩二・鬼頭　剛・奥野絵美
編集機関	公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802番24　TEL 0567(67)4163
発行年月日	西暦2012年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
ながのきたうらいせき 長野北浦遺跡	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 ながの 長野	23220	090072	35度 15分 25秒	136度 49分 04秒	2007.4.1 ～ 2008.3.31	5,500	都市計画道路稲沢西春線建設
						2008.4.1 ～ 2008.10.31	1,500	
						2007.4.1 ～ 2008.3.31	2,500	
						2008.4.1 ～ 2009.3.31	6,150	
とうのこしいせき 塔の越遺跡	あいちけんいなざわし 愛知県稲沢市 ながの　とうのこし　じろまる 長野・塔の越・治郎丸		090009	35度 15分 25秒	136度 48分 57秒	2009.5.1 ～ 2009.8.31	710	
						2010.4.1 ～ 2010.4.28	90	

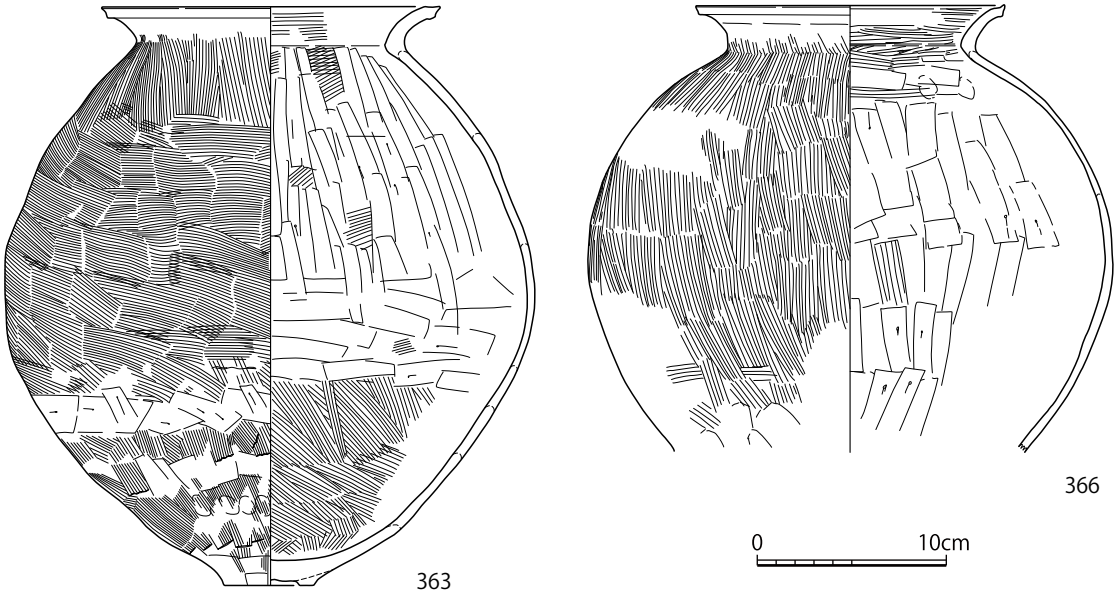
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
長野北浦遺跡	集落	古墳	墳墓・竪穴住居	土師器	
		中世・近世	掘立柱建物・井戸・溝 土坑	中・近世陶器	
塔の越遺跡	集落	古墳	円墳・方墳	土師器・須恵器・埴輪	
		古代	竪穴建物・掘立柱建物 井戸	須恵器・灰釉陶器	
		近世	井戸・溝・土坑	近世陶器	

文書番号	発掘届出(18埋セ第101号 2007.3.15)　発掘届出(19埋セ第114号 2008.3.11)　発掘届出(20埋セ第129号 2009.3.26)　発掘届出(21埋セ第129号 2010.3.3) 通知(18教生第2737号 2007.3.28)　通知(19教生第2941号 2008.3.19)　通知(21教生第21号 2009.4.2)　通知(21教生第2611号 2010.3.23) 終了届・保管証・発見届(19埋セ第116第号 2008.311)　終了届・保管証・発見届(20埋セ第119号 2009.3.13)　終了届・保管証・発見届(21埋セ第60号 2009.9.3)　終了届・保管証・発見届(22埋セ第35号 2010.4.28) 監査結果通知(19教生第2967号 2008.3.24)　監査結果通知(20教生第3270号 2009.3.30)　監査結果通知(21教生第1555号 2009.10.22)　監査結果通知(22教生第793号 2010.7.8)

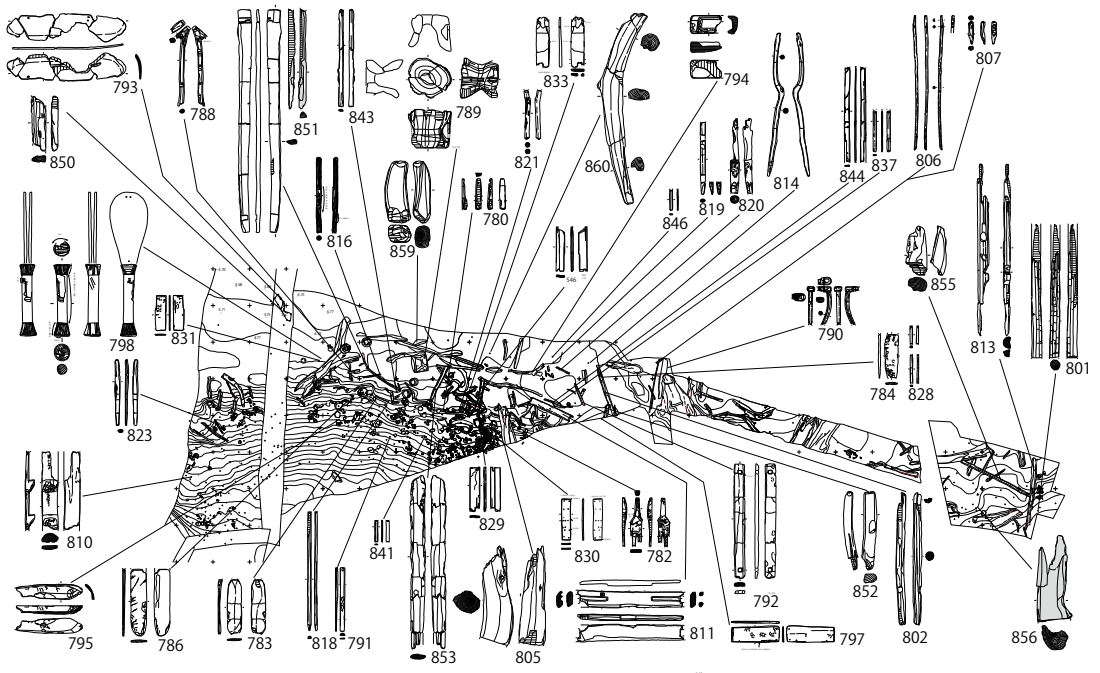
要約	長野北浦遺跡・塔の越遺跡の調査によって、古代に関しては南北方向に大溝が掘削されてエリアを画し、そのなかに竪穴建物群や掘立柱建物群が散在している様子を把握することができた。興味深いのは、8 世紀代までではそれら建物群が先行して造営された墳墓群とともに一つの景観を構成している点である。4 世紀に始まり 6 世紀まで続く墳墓群の存在は、この地域が濃尾平野における中心地の一つであったことを示すのであり、その西方に尾張国府（衙）が位置していることとも無関係ではないだろう。もちろん、古墳時代における集落域の実態は不鮮明ではあるが、三宅川に沿う自然堤防が安定した高度を保ち、居住環境として他に優越していることは確かであり、尾張国府を含めた濃尾平野における古代史像を考える上で重要な資料を提供した。

第172集　惣作遺跡 II

安城市木戸町に所在する惣作遺跡は、鹿乗川流域の沖積低地にあり、その自然堤防から後背湿地に立地する。調査の結果、弥生時代～古墳時代前期・奈良時代～平安時代・鎌倉時代以降の３期に大別される遺構や遺物が確認された。調査成果は多岐に及ぶが、弥生時代中期を中心に竪穴建物が繰り返し建て替えられた集落跡と古墳時代前期の自然河道に多量に遺棄された土器と木製品などが注目されるだろう。古墳時代前期の遺物群は水辺の祭祀の存在を思わせる内容を含んでいるともいえる。また、年号や人名が記された習書木簡は古代三河の具体的な歴史を語る上で貴重な資料となっている。　（鈴木正貴）



003NR出土土器



003NR木製品分布図

報告書抄録

ふりがな	そうさくいせき　2
書　　名	惣作遺跡Ⅱ
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第172集
編著者名	鈴木正貴、永井邦仁、樋上昇、川添和暁、鈴木茂、黒沼保子、佐々木由香、バンダリ スダルシャン
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24
発行年月日	西暦 2012年 3月 31日　　TEL0567(67)4161

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
そうさくいせき 惣作遺跡	あんじょうし　きどちょう 安城市木戸町	23213	540132	34度 53分 60秒	137度 05分 38秒	20080901～ 20091130	2100㎡	鹿乗川河川改良工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
惣作遺跡	集落	弥生時代～古墳時代前期	竪穴建物、自然河道、土器棺墓など	弥生土器、土師器木製品など	弥生時代中期から平安時代の集落
		奈良時代～平安時代	竪穴建物、掘立柱建物、溝、土坑など	須恵器、土師器灰釉陶器、木製品など	
		鎌倉時代～江戸時代	掘立柱建物、溝、水田など	山茶碗類、瀬戸美濃窯産陶器、木製品など	古墳時代前期の良好な一括資料と木簡

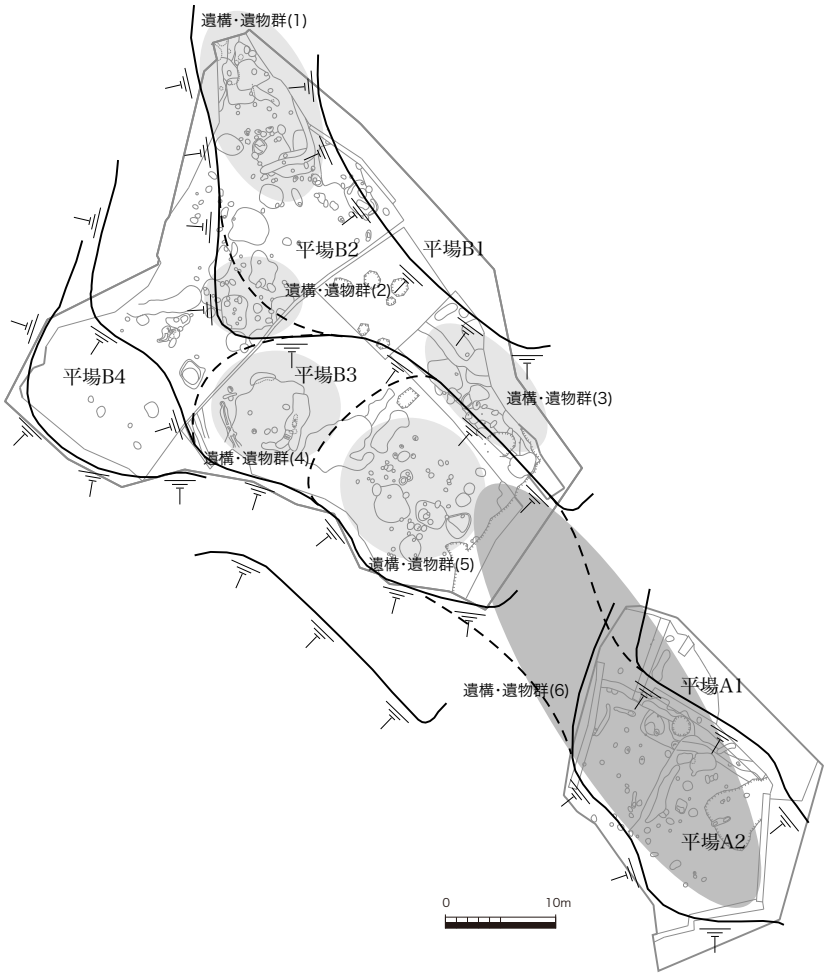
文書番号	発掘届出（20埋セ第57号・2008.8.19）（21埋セ第41号・2009.7.15） 通知（20教生第1360号・2008.9.9）（21教生第1033号・2009.8.6） 終了届・保管証・発見届（20埋セ第94号・2009.12.24）（21埋セ第78号・2009.10.28）
要約	今回の調査で確認された遺構や遺物は3期に大別される。弥生時代中期から古墳時代前期では、竪穴建物を中心とした集落が展開したとみられ、古墳時代前期の自然流路から多量の土器と木製品が出土した。奈良時代から平安時代には竪穴建物と掘立柱建物も伴う集落が営まれ、年号と人名が記された木簡も1点出土した。鎌倉時代以降は居住域ではなくなったようで、水田や河道などの土地利用が確認された。 鹿乗川流域遺跡群の南部に所在する本遺跡は、周辺に点在する他の遺跡との関連が注目される。

第176集　柿下遺跡

柿下遺跡は新城市の茶臼山山麓に所在する、中世から近世にかけての集落遺跡である。第二東海自動車道建設工事に伴って、平成20年度に発掘調査を実施した。遺構は、山茶碗が出土する掘立柱建物や竪穴状遺構などが検出されている。

出土遺物の整理作業は、平成22年度に実施した。出土遺物はコンテナ7箱程度で調査面積（2,400㎡）に比してひじょうに少ない点が当該遺跡の特徴のひとつである。また、中世の山茶碗や土師器鍋・皿以外にも、戦国時代から近世にかけての陶磁器・土師器皿や、数点ずつではあるが平安時代の灰釉陶器や縄文土器（押型文土器など）、石器が出土しており、山麓部における土地利用がなされた時期を示すものとして重要な資料を検出することができた。遺物は実測・写真撮影による記録を行ない報告書にそれらを提示した。

上記の遺物整理作業に加えて、遺構の分布状況についても検討をおこなった。結果、中世段階では山麓斜面を切り開いてできたいくつかの小平場に集落を構築していることが明らかになった。そして、文献史料や地名の考証によってこれらの小集落群が中世荘園の開発に伴うものである可能性を指摘し、周辺も含めて荘園遺跡として考古学情報を統合していくことの必要性を提示した。加えて、このような小集落群で構成される遺跡の範囲確認の方法についても再考が必要であることを述べた。　（永井邦仁）



柿下遺跡の中世遺構・遺物群分布

報告書抄録

ふりがな	かきしたいせき
書　　名	柿下遺跡
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第176集
編著者名	永井邦仁、鬼頭剛、長田友也
編集機関	公益財団法人　愛知県教育・スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017 愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL0567(67)4161
発行年月日	西暦 2012年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積	調査原因
かきしたいせき 柿下遺跡	あいちけん しんしろし 愛知県新城市 うえの 上野	23207	760037	34度 55分 28秒	137度 30分 49秒	2008.12.01～ 2009.03.15	2,400㎡	第二東海 自動車道 建設工事

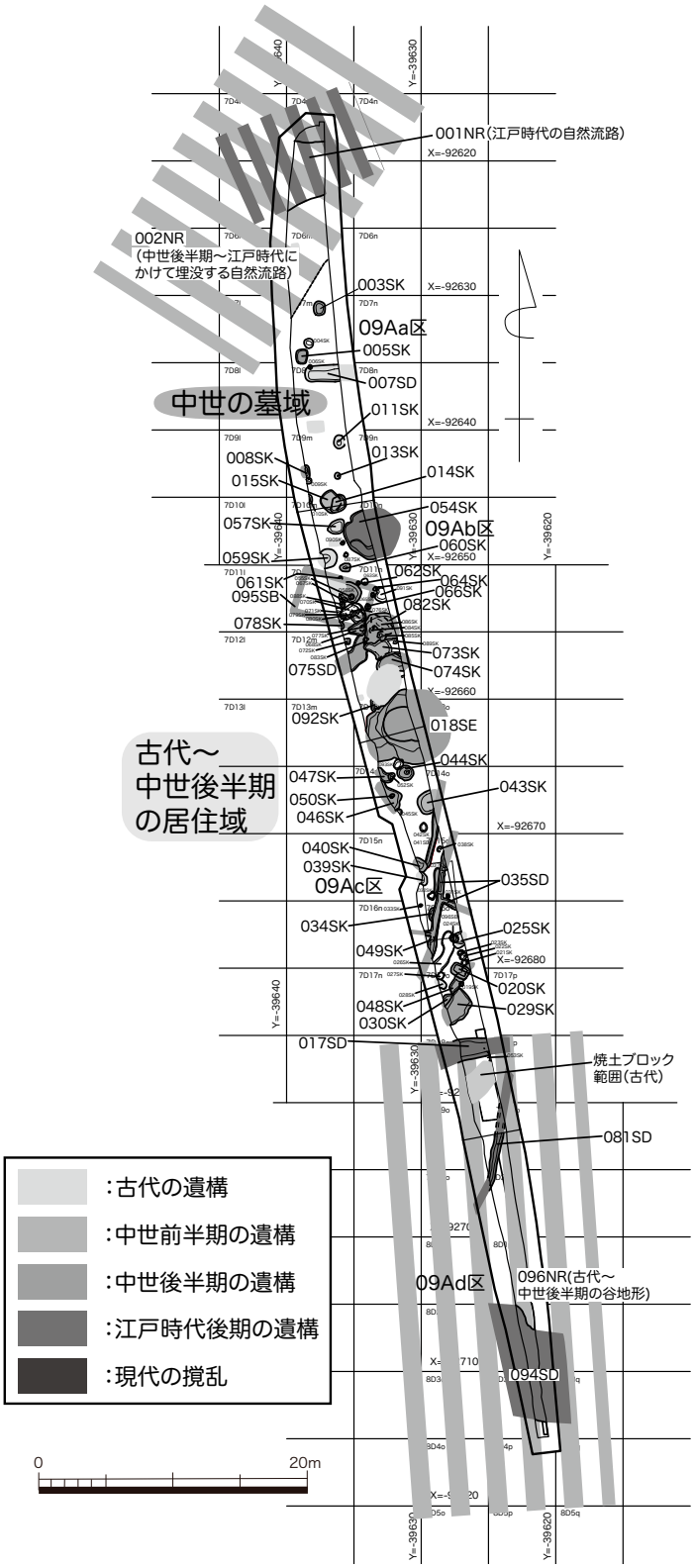
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
柿下遺跡	集落	縄文時代 ～ 江戸時代	掘立柱建物跡、 竪穴状遺構、 土坑等	土師器（皿・鍋）、 瀬戸美濃窯産陶器、 山茶碗、灰釉陶器、 刀子、石鏃、石斧、 縄文土器	中世前半に造成された小平場群

文書番号	発掘届出（20埋セ第72号・2008.10.7）　通知（20教生第1741号・2008.10.27） 終了届・保管証・発見届（20埋セ第121号・2009.3.19）鑑定通知（21教生第316号・2009.4.10）

要約

本遺跡は、雁峰山系南東麓の茶臼山斜面に形成された、中世～近世の集落遺跡である。その開発は、平安時代末期に遡り、竪穴状遺構や掘立柱建物で構成される。その建物群は約10m四方の小さな範囲にまとまるものがほとんどである。出土遺物は山茶碗と土師器皿が大半を占め、一部灰釉陶器や戦国時代の陶器や土師器鍋がある。また時代は異なるが石鏃や磨製石斧、押型文土器などの縄文時代の遺物も出土していることから、時期の特定できる遺構はあまりないが当該期にも集落として利用されていたと考えられる。なお中世の開発は、荘園の所在を示す地名や神社が付近に存在することから、それに関連するものと考えられる。

第177集　日置本郷B遺跡



09A 区遺構変遷図

日置本郷B遺跡は愛知県愛西市日置町本郷に所在する遺跡で、本遺跡は旧佐屋町埋蔵文化財包蔵地一覧に日置本郷B遺跡（遺跡番号37005）として周知の遺跡である。愛知県建設部道路維持課海部建設事務所による県道富島津島線自転車歩行者道設置事業に先立って発掘調査が計画され、愛知県教育委員会を通じて委託を受けて、平成21年12月から平成22年２月の期間で、発掘調査（調査面積は1,100㎡）を実施した。発掘調査の終了後、平成23年度に出土遺物の整理作業と報告書作成を行った。

発掘調査と整理作業を行った結果、奈良時代から平安時代前期にかけての遺構（溝１条・土坑10基）と遺物（須恵器・土師器・灰釉陶器・製塩土器・緑釉陶器など）、平安時代末から室町時代にかけての遺構（掘立柱建物１棟・溝4条・井戸１基・土坑25基）と遺物（中世陶器・土師器・青磁・白磁・土錘・瓦など）、江戸時代後期の遺構（溝3条・土坑1基）と遺物（陶磁器・砥石・瓦など）が確認された。

奈良時代から平安時代前期には集落跡の居住域が営まれ、平安時代末から室町時代にかけては、集落跡の居住域と墓域が推定された。そして、遺構・出土遺物の分布状況から、奈良時代から室町時代にかけての集落跡が、江戸時代後期の集落跡に比べて、自然地形の起伏による影響をより強く受けて形成されていた状況がみられた。

（蔭山誠一）

報告書抄録

ふりがな	へきほんごうビーいせき
書名	日置本郷Ｂ遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	愛知県埋蔵文化財センター調査報告書
シリーズ番号	第177集
編著者名	石田泰弘・蔭山誠一・鬼頭剛・黒沼保子・中村健太郎・宮腰健司
編集機関	公益財団法人　愛知県教育･スポーツ振興財団　愛知県埋蔵文化財センター
所在地	〒498-0017　愛知県弥富市前ヶ須町野方802-24　TEL 0567-67-4163
発行年月日	西暦2012年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m^2	調査原因
へきほんごう 日置本郷 ビーいせき B遺跡	あいちけんあいさいし 愛知県愛西市 へきまちほんごう 日置町本郷	232327	37005	35度 9分 50秒	136度 43分 4秒	2010.12 ～ 2011.2	1,100	県道富島津島線自転車歩行者道設置

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
日置八幡宮 遺跡	集落跡	奈良時代・平安時代 鎌倉時代・室町時代 江戸時代	溝１条・土坑10基 掘立柱建物１棟・溝4条井戸１基・土坑25基 溝3条・土坑1基	須恵器・灰釉陶器・土師器・製塩土器 山茶碗・小皿・青磁・白磁・土師器・土錘・古瀬戸陶器・瓦・砥石・井戸組み板 陶磁器・土師器・砥石	古代から中世にかけての集落跡

文書番号	発掘届出(21埋セ第77号、平成21年10月22日付) 通知(21教生第1689号、平成21年11月12日付) 終了届・発見届･保管証(21埋セ第118号、平成22年3月1日付) 監査結果通知(21教生第2719号、平成22年3月29日付)
要約	奈良時代から平安時代前期にかけての遺構と遺物、平安時代末から室町時代にかけての遺構と遺物、江戸時代後期の遺構と遺物が確認され、奈良時代から平安時代前期には集落跡の居住域が営まれ、平安時代末から室町時代にかけては、集落跡の居住域と墓域が推定された。そして、遺構・出土遺物の分布状況から、奈良時代から室町時代にかけての集落跡が、江戸時代後期の集落跡に比べて、自然地形の起伏による影響をより強く受けて形成されていた状況がみられた。

IV. 埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会の記録

平成23年度　埋蔵文化財展・埋蔵文化財講演会について

1 目的

愛知県埋蔵文化財センターの発掘調査により出土した資料を広く公開し、また、学術経験者による講演会を開催することによって、県民の埋蔵文化財に対する理解を深めるとともに、郷土に残された先人の歴史を考え、文化財保護意識の向上を図る。

2 主催

愛知県教育委員会

豊田市教育委員会

（公益）愛知県教育・スポーツ振興財団 愛知県埋蔵文化財センター





チラシ（表）



チラシ（裏）

3 埋蔵文化財展

1）会場：豊田市郷土資料館
　　第１展示室・第２展示室

2）会期：平成24年１月28日（土）
　　～３月４日（日）

3）展覧会名：「ケヤキが語る2000年
　　―弥生・古墳時代の木の文化―」

4）展示構成



<< A　**ケヤキが語る2000年** >>

第１章　森と人とのかかわり
　：現生の樹種丸太11種ほか

第２章　弥生の匠たち
　：あま市阿弥陀寺遺跡、春日井市松河戸遺跡・勝川遺跡、豊田市川原遺跡・水入遺跡、
　安城市下懸遺跡・惣作遺跡など

第３章　地域開発と米づくり
　：春日井市松河戸遺跡・勝川遺跡、一宮市八王子遺跡、名古屋市志賀公園遺跡、
　豊田市神明遺跡・川原遺跡・寺部遺跡など

第４章　衣食住の木製品
　：春日井市松河戸遺跡、一宮市八王子遺跡、安城市上橋下遺跡・下懸遺跡・惣作遺跡
　・姫下遺跡

第５章　ハレの日の木製品
　：清須市朝日遺跡、一宮市八王子遺跡・大毛沖遺跡、豊田市本川遺跡、安城市下懸遺跡など

第６章　これ何だろう？
　：一宮市八王子遺跡、安城市下懸遺跡・姫下遺跡

第７章　未来に残す：写真パネル





<< B　**埋蔵文化財新出土品展** >>

安城市五反田遺跡（弥生土器・玉類）
新城市石座神社遺跡（破鏡・弥生土器・土製品）
岡崎市車塚遺跡（須恵器・玉類）
豊橋市キジ山古墳群・晴雲寺址
（須恵器・瓦・近世陶器）
稲沢市鎌倉街道周辺遺跡
（石塔・中世陶磁器・土師器）
新城市中山砦跡（鉄鏃）
清須市清洲城下町遺跡（戦国陶器・地震痕）
岡崎市西牧野遺跡（旧石器・礫群）

＜パネル展示のみ＞

稲沢市塔の越遺跡
一宮市伝法寺野田遺跡
大府市別岨古窯群
東浦町八巻古窯群
瀬戸市上品野Ｅ窯跡
豊橋市東屋敷遺跡
新城市欠下城跡
設楽町川向東貝津遺跡





遺跡解説 リーフレット





4 埋蔵文化財講演会

1）会場：豊田市崇化館交流館 2階大会議室

2）日時：2月12日（日）午後2時～4時

3）講師：山田昌久氏（首都大学東京教授）

4）演題：「木の道具の効果を調べる」



ケヤじい



埋蔵文化財講演会

5 関連事業

1）埋蔵文化財講座（豊田市郷土資料館）

日時：各回ともに午後2時～3時

第1回：1月29日（日）

樋上 昇

（愛知県埋蔵文化財センター調査研究専門員）

「農工具の変遷」

第2回：2月5日（日）

「最近の発掘調査の成果より―弥生・古墳―」

永井邦仁

（愛知県埋蔵文化財センター調査研究主任）

「キジ山古墳群・青雲寺址」

早野浩二

（愛知県埋蔵文化財センター調査研究主任）

「石座神社遺跡」

池本正明

（愛知県埋蔵文化財センター調査研究専門員）

「車塚遺跡」

第3回：2月19日（日）

樋上 昇「ハレの木製品」



埋蔵文化財講座

第4回：2月26日（日）

「最近の発掘調査の成果より―豊田市内―」

高橋健太郎（豊田市教育委員会）

「寺部遺跡」

杉浦裕幸（豊田市教育委員会）

「矢作川河床埋没林」

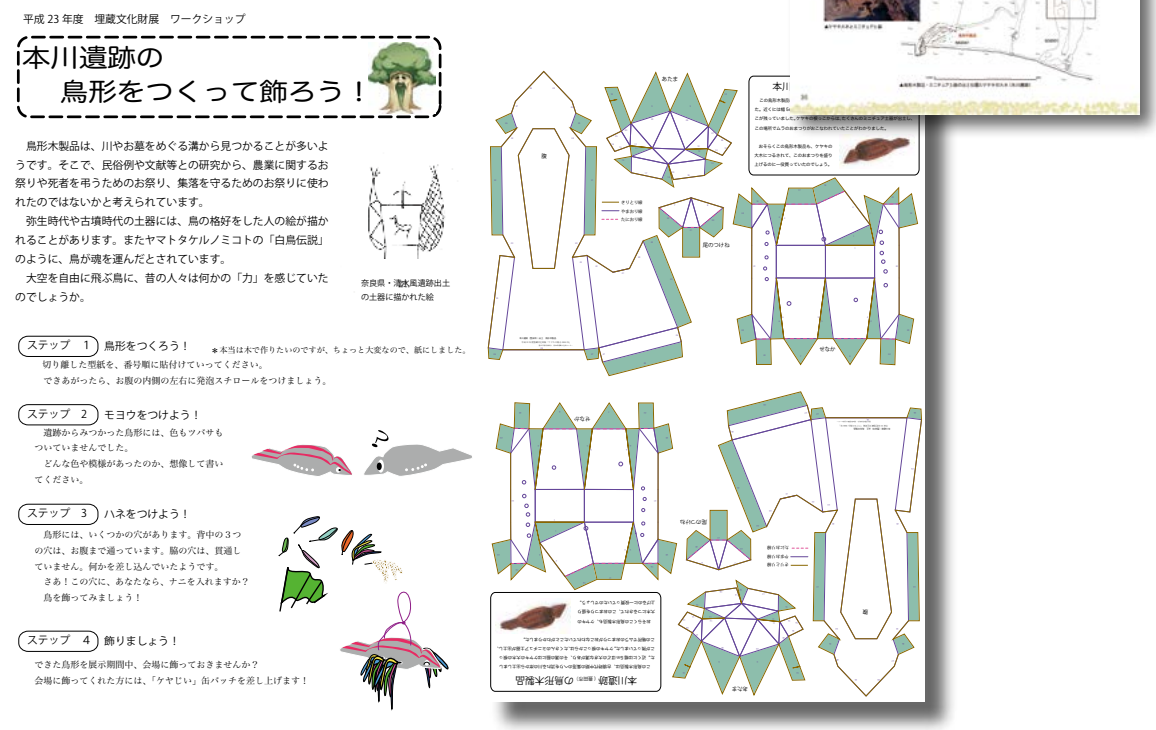
第5回：3月4日（日）樋上 昇

「木製品からみた尾張・三河の古植生」





展示解説（部分）



ワークショップ　「とりがた」ペーパークラフト

２）ワークショップ

日時：午前10時～正午、午後1時～3時

第１回：１月28日（土）
「本川遺跡の鳥形をつくって飾ろう！」
講師：愛知県埋蔵文化財センター職員

第２回：２月４日（土）
「顕微鏡で木の組織を見てみよう！」
講師：植田弥生氏

第３回：２月11日（土）午前
「木を割ってみよう、削ってみよう！」
講師：山田昌久氏（首都大学東京教授）

第４回：２月11日（土）午後
「弓の発射実験！スピードガン競争！」
講師：山田昌久氏

第５回：２月18日（土）
「原始機で布を織ってみよう！」
講師：久保禎子氏（一宮市博物館）

第６回：２月25日（土）
「木のクワで土を掘ってみよう！」
講師：愛知県埋蔵文化財センター職員



「実験って、途中も面白いね」



「木の組織って？」



「ね、思ったより、いい道具でしょ」



弓の発射実験、だけど…



あんぎんの講習



あらら～、でも大丈夫。



あなた、いい手つきね



縄文時代と弥生時代？



ときには職人のように



ワークショップ第５回

「原始機で布を織ってみよう！」

会場では、それぞれ縄文時代、弥生時代以来の技術と考えられる「あんぎん」と「やよい機（はた）」の２種類の方法について体験してもらいました。

Ⅴ. 発掘調査技術等研修会の記録

平成23年度　発掘調査技術等研修会　開催報告

1. 目的

発掘調査費用の削減と民間調査機関の参入によって、埋蔵文化財調査をめぐる環境は厳しくなっている。このような状況において、試掘調査および範囲確認調査の精度をあげることが非常に重要である。そこで本年度は、試掘調査・範囲確認調査について、愛知県内外の事例をあげて研修する。

2. 題目　「試掘調査・範囲確認調査の再検討」

3. 主催　愛知県教育委員会・(公益)愛知県教育・スポーツ振興財団

主管　愛知県埋蔵文化財センター

4. 日時　平成23年12月２日(金)

5. 内容

(１)「試掘調査・範囲確認調査の現状と課題

～発掘調査」は遺跡の「破壊」であるという認識をいかに持つのか～」

講師　三重大学教授　山中　章

(２)「愛知県埋蔵文化財センターの範囲確認調査」

講師　愛知県埋蔵文化財センター　調査研究主任　永井邦仁

(３)「試掘調査・範囲確認調査の成果と発掘調査における実態」

講師　豊田市教育委員会　主幹　森　泰通

(４)「遺跡地図及び試掘確認調査支援システムについて」

講師　養老町教育委員会　主任　中島和哉



研修会の午前は講師である山中章氏による講演では、まず京都府向日市における長岡京跡の試掘調査や範囲確認調査について、広域遺跡である長岡京跡の発掘調査の経過を調査事例とその後の遺跡の普及・活用までを含めた事例を発表され、遺跡の内容の精査・研究が不可欠であり、遺跡の重要度に応じた調査方針を決定し、調査を行う必要があると述べられた。また遺跡の内容の精査・研究の深化には、調査→報告→研究→調査の繰り返しが大切であることを指摘された。

分布調査についても、国土座標の入った都市計画図をもとに、出土地点の位置と出土遺物の量や性質により遺跡を評価し、将来の発掘調査に備える事の大切さを述べられた。

続いて試掘調査の課題として、三重大学構内にて発見された鬼が塩屋遺跡の調査について、遺跡の発見の経緯と発掘調査に至って得られた成果により、現在問題となっている地震との関連を述べられた。また大学組織の改編に伴う遺跡の調査主体の変更による課題として、調査の精度をあげる上で遺跡に対する認識の相違と連携の難しさについて指摘された。

次に、範囲確認調査の事例として三重県北畠館跡の調査をとりあげ、狭いトレンチ調査に伴う成果から遺跡の範囲を確定する方法や、現存する遺構等との関連性を検討する上での調査方法への課題について述べられた。

最後に、文化庁が取りむ「発掘調査のてびき」に示される「調査標準」についてとりあげ、遺跡の調査と研究の深化は、国土座標の入った遺跡の情報と調査成果の共有できる報告書の存在、そして担当者の遺跡に対する情熱が不可欠であることを指摘された。

午後からは、永井邦仁氏による愛知県埋蔵文化財センターのおける範囲確認調査について、近年永井氏が担当された範囲確認調査について、これまでに発掘調査が実施された新城市柿下遺跡の事例、安城市鹿乗川流域の姫下遺跡・寄島遺跡・下懸遺跡・惣作遺跡の事例、豊橋市キジ山古墳群・青雲寺址の事例、豊橋市東下地遺跡の事例について報告された。丘陵上に立地する新城市柿下遺跡では、遺構・遺物とも少量の検出による遺跡の評価について、安城市鹿乗川流域の姫下遺跡・寄島遺跡・下懸遺跡・惣作遺跡については、矢作川流域の沖積地における遺構・遺物の広がりについて、豊橋市キジ山古墳群・青雲寺址においては、古墳時代終末期における小規模な石室を有する古墳の把握に関する問題について、豊橋市東下地遺跡では、調査地に隣接する河道の過去の堆積物に関する評価についてそれぞれ、調査における成果と課題について述べられた。





次に森泰通氏による豊田市教育委員会による試掘調査と範囲確認調査について報告があり、平成元年の丸根遺跡から、平成２年の仁王川流域遺跡、平成6年の岩長遺跡、平成18年・19年に行われた寺部遺跡と森氏が行ってこられた調査について、比較的限定的範囲の試掘調査・範囲確認調査である丸根遺跡から比較的広範囲にわたる試掘調査・範囲確認調査である仁王川流域遺跡・岩長遺跡・寺部遺跡への方法の変化（重機の使用など）と試掘調査・範囲確認調査の精度として、実際の発掘調査における成果との関係について調査面積の比率について報告された。そして近年の発掘調査の調査会方式から民間業者委託への方法変化に伴い、調査費用の積算方法の変更とそれに伴う試掘調査・範囲確認調査の精度をあげることが必要であることを述べられた。

そして最後の報告として、中島和哉氏による岐阜県養老町における取り組みとして、試掘確認調査支援システム（考古学ポケット）について、ホームページを活用した事例として、実演をともなう講演を頂いた。中島氏は養老町の試掘確認調査支援システム（考古学ポケット）の目的として①試掘確認調査に係る業務量をなるべく減少させることや②試掘確認調査報告書に係る経費を節約すること、③全ての試掘確認調査の成果を、一つのシステムの中で管理し、公開できる環境をつくることの３点を想定してシステムを構築されたことを述べられた。またシステム構築に際して、全ての考古学情報をweb上に置き、いつでもどこでも欲しい情報を取得でき、インターネット上で検索・編集可能なシステムを作ること、特定のOSやアプリケーション、ディバイスに依存しないシステムを構築することなどに留意されている点と現状における運営の課題などについて報告された。

これらの講演と報告の後、質疑応答が行われ、試掘調査や範囲確認調査について手掘りのみの方法から重機などをもちいた方法への経験談も交えながら、調査方法の変化に伴う調査費用の積算方法の見直しや遺跡の調査から保存・活用につなげる問題などについて意見交換が行われた。また、遺跡の詳細分布調査について、豊橋市では地区ごとに小区分したグリッドを設定し、人海戦術による悉皆式分布調査を実施した、などの方法の紹介があった。全体の意見交換を通じて、継続的な遺跡の調査と研究、そして保存・活用については、国土座標に基づいた遺跡情報の共有が重要であり、遺跡の基本資料である遺跡の分布地図とそれに基づいた遺跡台帳が不可欠であるということが確認できたように思われる。

（陰山誠一）

VI. 埋蔵文化財センターの活動

資料の貸出・提供

貸出先	目的	遺跡名	貸出・提出資料		期間
豊川市教育委員会	「新編豊川市史　第１巻　通史編　原始・古代・中世」	朝日遺跡 廻間遺跡	遺構分布図　1点 前方後方周溝墓と出土土器図 1点	2点	2011.4.1
（株）風媒社	『亨保のマニュフェスト』	清洲城下町遺跡	石垣出土状況写真	1 点	2011.4.8
（株）ベストセラーズ	『歴史人』７号	名古屋城三の丸遺跡	1　[H12 埋文展] 空撮 勝幡城周辺(南より) : 038-100.jpg 2　[H12 埋文展] 空撮 那古野城周辺(東より) : 038-096.jpg 3　「那古野城の館城の堀」:060-020.jgp 4　[H12 埋文展] 空撮 小牧山城周辺(北より) : 038-098.jpg	4 点	2011.5.9
西尾市教育委員会	パンフレット『西尾の遺跡』	室遺跡	木樋出土状況写真	1 点	2011.5.9
文化庁文化財部記念物課	『発掘された日本列島2011』	一色青海遺跡	遺構図面等 デジタルデータ	12 点	2011.5.30
北名古屋市教育委員会	『市電　沢上車庫を掘る◇遺跡から発見された昭和ー旧懐と歴史・伝世品と出土品』	名古屋城三の丸遺跡（報告書第127 集） 名古屋城三の丸遺跡（報告書第161 集）	遠景（127-001.jpg) 調査区全景(127-002.jpg) ガラス瓶等出土遺物（127-368.jpg) 調査区風景（161-001.jpg） 調査区全景（161-002.jpg） ガラス瓶など（161-362.jpg)	6点	2011.6.3
浜松市博物館	特別展『銅鐸から銅鏡へ』	朝日遺跡（報告書第30 集） 朝日遺跡（報告書第32 集）	銅鐸出土状況（030-010.jpg) 銅鐸写真（032-017.jpg)	2点	2011.6.8
浜松市博物館	特別展『銅鐸から銅鏡へ』	朝日遺跡	出土銅鐸レプリカ	1点	2011.6.10
北名古屋市教育委員会	『市電　沢上車庫を掘る◇遺跡から発見された昭和ー旧懐と歴史・伝世品と出土品』	名古屋城三の丸遺跡（報告書第161 集）	発掘調査写真 （161-059.jpg,161-060.jpg,161-061.jpg)	3点	2011.6.17
因幡万葉歴史館	展覧会『律令制と因幡国（仮称）	下懸遺跡	習書木簡の写真（裏面, 表面)	2点	2011.6.27
（株）同成社	『日本の遺跡シリーズ　44 巻　荒神谷遺跡』	朝日遺跡	銅鐸出土状況（030-010.jpg)	1点	2011.7.7
稲沢市教育委員会	稲沢市立祖父江町郷土資料館企画展『いなざわの歴史』	一色青海遺跡（147 集）	巻頭カラー、遺構図版24, 大型掘立柱建物CG	6点	2011.7.13
（株）山川出版	『中世都市研究16　都市のかたち』	鎌倉街道周辺遺跡	発掘調査現場写真	4点	2011.7.20
下関市立考古博物館	展示会『弥生時代の拠点集落ーその構造と機能ー』	朝日遺跡　第30集 朝日遺跡　第83集 朝日遺跡　第138 集	発掘調査現場写真（030-013） 石包丁写真（083-587,083-581) 遺構写真（138-iko00152,138-iko00034) 遺物写真（138-gra01118,138-gra01120,138-gra01130,138-hor00044,138-hor00039,138-hor00036,138-hor00031,138-hor00021,138-hor00024,138-hor00028,138-top003)	16点	2011.7.28
名古屋市中区	『早わかり　中区の歴史ー小学生版・名古屋市中区誌（仮）	名古屋城三の丸遺跡　I 名古屋城三の丸遺跡　VIII	大がめ写真 便器写真	2点	2011.8.18
一般社団法人日本考古学協会	『発掘された日本列島2011』の英訳および日本考古学協会公開サイト	一色青海遺跡	遺構図面等 デジタルデータ	12点	2011.8.29
春日井市教育委員会	平成23 年度　文化財特別展『春日井の古代史事始IV』―省内川をめぐる古代史・生きる叡智と活かす知恵―	勝川遺跡 朝日遺跡	遺構・遺物写真(000-067,029-032,029-036,029-0387,029-038, 人形) 遺構写真(030-253,030-100,030-012,030-013,030-028,154-110,154-062,154-116,154-133)	15点	2011.9.3

貸出先	目的	遺跡名	貸出・提出資料		期間
鳥取県埋蔵文化財センター	『青谷上寺地遺跡フォーラム2011　弥生・骨角器サミット～青谷上寺地遺跡の交流をさぐる～予稿集』	朝日遺跡	遺物実測図	14点	2011.9.13
個人	日本植生史学会第26 回大会での発表	麻生田大橋遺跡	遺物実測図 (76,99,103,125,130)	5点	2011.9.16
株式会社NHK エンタープライズ ライツアーカイブセンター	『歴史秘話ヒストリア』「つらい時こそ一歩前へ！～徳川家康の決断～」のビデオグラム	桑下城跡	発掘調査写真 デジタルデータ	4点	2011.10.3
豊田市今自治区	『自治区誌』	今町遺跡 今町遺跡II	報告書掲載遺物写真 報告書掲載　図および写真	11点 23点	2011.10.6
大口町歴史民俗資料館	企画展『中世城館でみーっつけたっ!!~ 出土遺物とめぐる尾北の戦国~』	清洲城下町遺跡（第99 集） 岩倉城遺跡（第99 集）	報告書掲載遺物写真　6点 報告書掲載遺物写真　8点	14点	2011.10.7
（株）ジャパン通信情報センター	『文化財発掘出土情報」20011 年11 ～12 月号「各地の動向」	車塚遺跡	平成23 年1 月８日開催　地元説明会資料（PDF）	1 点	2011.10.13
(株)NHK エンタープライズ	『歴史秘話ヒストリア』「つらい時こそ一歩前へ！～徳川家康の決断～」をJAL 国際線個人用シートTV にて上映	桑下城跡	発掘調査写真 デジタルデータ	4点	2011.10.17
山口郷土資料館	山口郷土資料館発行の機関紙に掲載	吉野遺跡	発掘調査写真 デジタルデータ 出土遺物実測図 出土遺物写真	4点	2011.10.21
個人	「古墳社会と地域経営」	八王子遺跡（第92 集）	図34　主要遺構配置図	1点	2011.10.25
木簡学会	木簡学会篇『木簡研究』第33 号「2010 年度出土の木簡」	下懸遺跡 惣作遺跡	出土木簡の実測図 出土木簡の実測図	2点	2011.11.8
一宮市博物館	企画展『暮らしの中の民具- 竹細工』	朝日西遺跡 一色青海遺跡	竹編物写真3点 出土カゴ・カゴ材出土状況写真４点	7点	2011.11.14
（株）風日舎	豊島岡女子学園発行『社会を拓く　歴史篇』	朝日遺跡	環濠集落模式図	1点	2011.11.14
下関市立考古博物館	展示会『弥生時代の拠点集落ーその構造と機能ー』	朝日遺跡　第30集 朝日遺跡　第83集 朝日遺跡　第138 集	発掘調査現場写真（030-013） 石包丁写真（083-587,083-581） 遺構写真（138-iko00152,138-iko00034) 遺物写真（138-gra01118,138-gra01120,138-gra01130,138-hor00044,138-hor00039,138-hor00036,138-hor00031,138-hor00021,138-hor00024,138-hor00028,138-top003)	16点	2011.11.22
共同通信社大阪社会部	連載企画『遺跡からの警告～地震考古学』	清洲城下町遺跡	出土遺物写真(H12-002-17) 1 点 胴木と石垣の写真(099-004) 1 点	2点	2011.11.28
栃木県立しもつけ風土記の丘資料館	企画展『漁具のいまむかし』展	朝日遺跡	ヤナ状遺構出土写真(034-002) 1 点 ヤナ状遺構推定復元図(H07-005) 1 点	2点	2011.11.29
愛知県総務部	『愛知県史　別編　窯業３　中世・近世　常滑系』	滝町古窯 八巻古窯群	遺構配置図及び窯体実測図 2 点 出土遺物実測図 27 点 遺構配置図 1 点	30点	2011.11.30
瀬戸市	平成23 年度『せと歴！（せと　歴史と文化財を知る見学会）』	桑下城跡	航空写真	1点	2011.12.5
愛知県総務部	『愛知県史　別編　窯業３　中世・近世　常滑系』	滝町古窯	航空写真	1点	2011.12.9
静岡市教育委員会	特別展『赤い土器の世界』	一色青海遺跡	出土遺物写真（赤い鹿の描かれた土器・赤彩カゴ・赤彩弓）	3点	2011.12.13
豊明市大脇区	大脇区文化祭（平成24 年1 月22 日開催）	大脇城遺跡	発掘調査写真 （086-003.jpg 086-013.jpg）	2点	2012.1.10

ホームページ

今年度も昨年に引き続き、地元説明会や調査速報、遺跡アルバム等、多くの情報公開に努めた。近年 CD コピーサービスの件数が減少する傾向にある。

Web 更新データ

●ブログ更新記事一覧

カテゴリー	内　　容	公開日
調査速報	平成 23 年度の調査予定の遺跡	2011.4.18
調査速報	寄島遺跡　調査速報その 1	2011.6.3
展示・講演会等	県陶磁資料館　南館　埋文コーナ　展示替え	2011.6.8
調査速報	鎌倉街道周辺遺跡　調査速報その 1	2011.6.9
調査速報	鎌倉街道周辺遺跡　調査速報その 2	2011.6.13
調査速報	鎌倉街道周辺遺跡　調査速報その 3	2011.6.22
調査速報	鎌倉街道周辺遺跡　調査速報その 4	2011.6.29
その他	中山砦跡出土鉄鏃について	2011.7.6
調査速報	車塚遺跡　調査速報　その 1	2011.7.14
調査速報	寄島遺跡　調査速報　その 2	2011.7.19
調査速報	車塚遺跡　調査速報　その 2	2011.8.3
調査速報	車塚遺跡　調査速報　その 3	2011.8.5
調査速報	車塚遺跡　調査速報　その 4	2011.8.16
展示・講演会等	東下地遺跡（豊橋市）　地元説明会のお知らせ	2011.8.23
調査速報	寄島遺跡　調査速報　その 4	2011.9.5
調査速報	清洲城下町遺跡　調査速報　その 1	2011.10.6
調査速報	大平遺跡　調査速報　その 1	2011.10.19
調査速報	清須城下町遺跡　調査速報　その 2	2011.10.28
調査速報	鹿乗川の橋と遺跡をめぐる（1）	2011.11.8
調査速報	大平本城　調査報告　その 2	2011.11.10
調査速報	鹿乗川の橋と遺跡をめぐる (2)	2011.11.21
調査速報	大平本城跡　調査速報　その 3	2011.11.25
調査速報	鹿乗川の橋と遺跡をめぐる（3）	2011.11.30
調査速報	大平本城　調査速報　その 4	2011.12.7
その他	清洲城下町遺跡　調査速報　その 3	2011.12.9
調査速報	惣作遺跡　調査速報　その 1	2011.12.26
調査速報	岡山南遺跡　調査速報　その 1	2012.1.4
展示・講演会等	平成 23 年度　埋蔵文化財展のお知らせ	2012.1.6
調査速報	岡山南遺跡　調査速報　その 2	2012.1.12
調査速報	清須城下町遺跡　調査速報　その 4	2012.1.19
調査速報	岡山南遺跡　調査速報　その 3	2012.1.20

<< 平成 23 年 4 月～平成 24 年 1 月 >>

●公開ファイル (総数)

報告書 PDF	110 件
説明会資料	47 件
年報 PDF	211 件
研究紀要 PDF	84 件
その他チラシ類	7 件
まいぶん愛知 PDF	32 件
遺跡位置登録	209 件
遺跡アルバム	26,092 点

CD コピーサービス（H23.4～H24.1）

1	010 廻間	073 西上免			
2	010 廻間	042 東光寺	048 松河戸	073 西上免	080 門間沼
3	030 朝日	031 朝日	034 朝日		
4	010 廻間	011 阿弥陀寺	021 麻生田大橋	073 西上免	079 一色青海
5	030 朝日 1	031 朝日 2	032 朝日 3	040 山中	
6	033 朝日 4	034 朝日 5	083 朝日		
7	004 下山古墳	024 池下	046 根川	022 森岡	040 山中

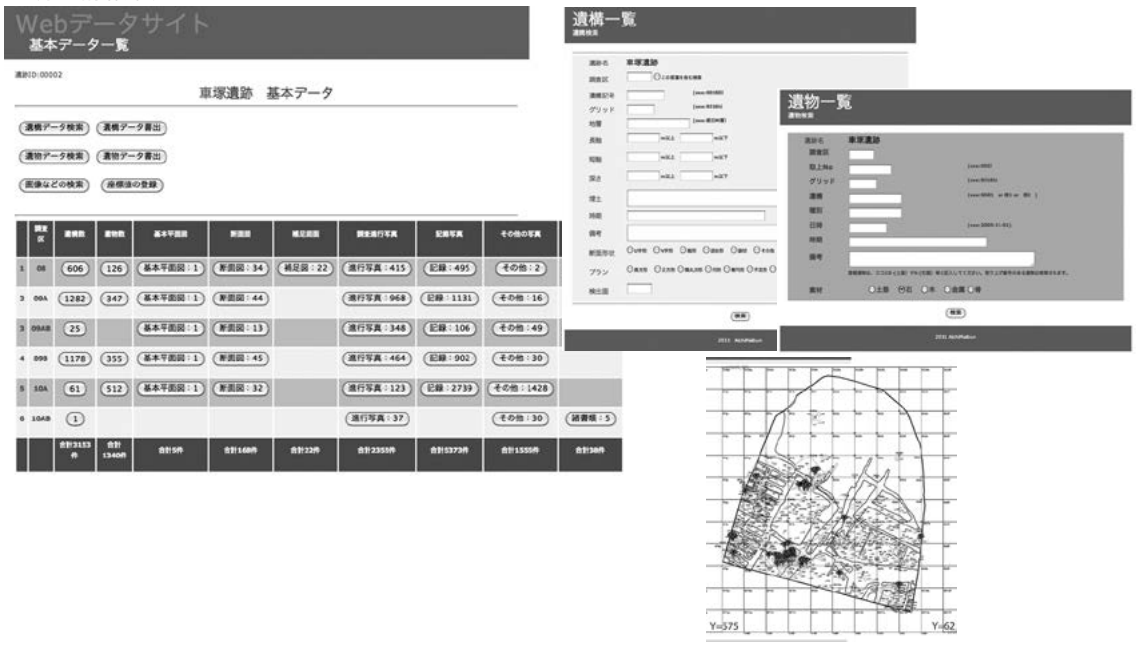
愛知県埋蔵文化財センターでは、調査日誌なども Web 上に書き込むシステムを採っており、職員間での発掘調査情報の共有を行っている。また調査が完了した遺跡の情報ついては、統一した基準を設定し、整理・保管を行っている。その調査成果の一部を、分布図の作成やデータ検索等ができるようなシステムと共にインターネット上のサーバーに置き情報の共有化を試みている。

職員限定サイト

●調査日誌 Wiki



●調査情報活用サイト



現地説明会・地元説明会・遺跡報告会

遺跡名	開催日	所在地	参加者	
車塚遺跡	平成23年8月7日（日）	岡崎市岩津町	65名	
寄島遺跡	平成23年8月20日（土）	安城市小川町	27名	
東下地遺跡	平成23年9月3日（土）	豊橋市石巻本町	45名	
清洲城下町遺跡	平成23年11月5日（土）	清洲市清洲地内	70名	
岡山南遺跡	平成24年1月28日（土）	西尾市吉良町	130名	
鎌倉街道周辺遺跡	平成23年5月15日（日）	稲沢市下津	47名	（下津市民センター）
大平本城跡	平成23年12月3日（土）	豊田市大平町	40名	（豊田市大平児童館）

発掘調査現場における遺構・遺物などの指導

遺跡名	指導日	指導者	所属
寄島遺跡	平成23年8月24日（水）	伊藤秋男	南山大学名誉教授

報告書作成のための指導

遺跡名	指導日	指導者	所属
塔の越遺跡	平成23年７月４日（月）	城ヶ谷和広	愛知県熱田高等学校教頭
日置本郷B遺跡	平成23年12月26日（月）	福岡猛志	日本福祉大学名誉教授
町屋遺跡	平成24年１月16日（月）	馬場伸一郎	下呂市教育委員会
上品野西金地遺跡	平成24年１月20日（金）	青木修	財団法人瀬戸市文化振興財団
上品野西金地遺跡	平成24年１月20日（金）	河合君近	財団法人瀬戸市文化振興財団
東中田A古窯	平成24年２月９日（木）	後藤健一	湖西市教育委員会
塔の越遺跡	平成24年2月21日（火）	城ヶ谷和広	愛知県熱田高等学校教頭
鎌倉街道周辺遺跡 上品野西金地遺跡	平成24年3月19日（月）	藤澤良祐	愛知学院大学
桑下城跡	平成24年3月22日（木）	藤澤良祐	愛知学院大学
鎌倉街道周辺遺跡	平成24年3月22日（木）	上村喜久子	名古屋短期大学名誉教授
桑下城跡	平成24年3月23日（金）	井上喜久男	愛知県陶磁資料館

その他普及事業

家族の絆づくり事業『家族で歴史を体感』（第３回）

日時：平成24年３月３日（土）午前9:30～午後4:00
対象：小中学生とその家族（30～40人を募集）
会場：豊田市郷土資料館（豊田市）・惣作遺跡（安城市）
内容：

◆豊田市郷土資料館にて
　埋蔵文化財展の見学
　ワークショップ（ペーパークラフト作製ほか）参加
◆惣作遺跡にて
　出土遺物を用いての整理作業を体験
　二子山古墳ほか安城市内の遺跡見学会

（各会場へは貸し切りバスで移動）
JR安城駅北口集合・9:30出発→10:30豊田市郷土資料館…（昼食）…→14:00惣作遺跡→14:50安城市内遺跡見学（徒歩）→16:00JR安城駅到着・解散



平成23年度　愛知県埋蔵文化財センター　組織一覧

運営協議会委員（五十音順）

足立　守	名古屋大学博物館特任教授
上村喜久子	名古屋短期大学名誉教授
加藤　徹	愛知県教育委員会生涯学習監
加藤安信	大同大学大同高等学校校長
柴垣勇夫	愛知淑徳大学教授
花井正文	愛知県都市教育長協議会会長 豊川市教育委員会教育長
藤澤良祐	愛知学院大学教授
松井　章	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所　埋蔵文化財センター長

専門委員

考古学	伊藤秋男	南山大学名誉教授
考古学	柴垣勇夫	愛知淑徳大学教授
文献史学	福岡猛志	日本福祉大学名誉教授
地理学	海津正倫	奈良大学教授
建築史学	麓　和善	名古屋工業大学院教授
考古学 **動物学** **植物学**	渡辺　誠	名古屋大学名誉教授
形質人類学	多賀谷　昭	長野県看護大学教授
保存科学	高妻洋成	独立行政法人国立文化財機構 奈良文化財研究所　埋蔵文化財センター 保存修復学研究室長
岩石学	諏訪兼位	名古屋大学名誉教授
木材組織学	木方洋二	名古屋大学名誉教授

センター長

平松栄一

管理課

管理課長	大野典子
主　査	森　清
主　任	下野直樹
主　事	藁科有紀子

調査課

副センター長 兼調査課長	赤塚次郎
統括専門員	石黒立人
主任専門員	小澤一弘　宮腰健司
調査研究専門員	松田　訓　酒井俊彦
	池本正明　鈴木正貴
	樋上　昇　堀木真美子
	永井宏幸
調査研究主任	鬼頭　剛　武部真木
	蔭山誠一　川添和暁
	永井邦仁　早野浩二

年報　平成23年度

平成24年3月
編集・発行　（公益）愛知県教育・スポーツ振興財団
愛知県埋蔵文化財センター
印　刷　栄印刷株式会社